

平安京右京三条四坊十三・十四町、 四条四坊十五・十六町跡

2003年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条四坊十三・十四町、
四条四坊十五・十六町跡

2003年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しております。また、平安京遷都以来今日に至るまで都市として永々と生活が営まれてきており、各時代の生活跡が連綿と重なり合っています。都であるゆえに、そこから発見されるその一つ一つは、日本の歴史を語るうえで欠くことのできないものとなっています。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした遺跡の発掘調査を通して京都の歴史の解明に取り組んでおります。その成果を市民の皆様に広く公開し活用いただけるよう努めていくことが研究所の責務と考えております。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、出土遺物の小・中学校や公的施設での貸出展示、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところであります。

さて、当研究所では従来各年度毎で報告してまいりました「京都市埋蔵文化財調査概要」を改め、平成13年度調査分より各調査箇所毎に1冊の報告書として発刊しております。平成13年度の第11冊目として、このたび葛野大路道路改築事業に伴う平安京跡の発掘調査の成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援をたまわりました関係者各位に厚くお礼ならびに感謝を申し上げる次第です。

平成15年2月

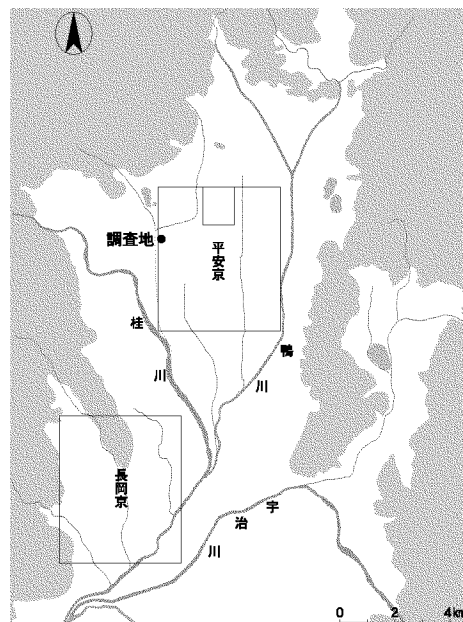
財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京三条四坊十三・十四町、四条四坊十五・十六町跡
- 2 調査所在地 京都市右京区山ノ内池尻町・西裏町・北口町・五反田町他地内
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 榊本頼兼
- 4 調査期間 7次調査 2001年6月11日～10月24日
8次調査 2002年1月15日～3月19日
- 5 調査面積 7次調査：約700㎡ 8次調査：約350㎡
- 6 調査担当者 伊藤 潔・近藤章子
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡測量基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 調査区ごとに通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 7次調査・8次調査ごとに図版・挿図の順に通し番号を付した。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子・担当調査員
- 15 基準点測量 宮原健吾
- 16 遺物復元 村上 勉・出水みゆき
- 17 本書作成 伊藤 潔・近藤章子
- 18 編集・調整 児玉光世・清藤玲子・能芝妙子

（調査地点図）



目 次

1 . 調査経過	1
2 . 周辺の調査	1
3 . 7次調査	5
(1) 経過	5
(2) 遺構	5
(3) 遺物	16
(4) まとめ	18
4 . 8次調査	19
(1) 経過	19
(2) 遺構	19
(3) 遺物	24
(4) まとめ	26

図 版 目 次

図版 1	遺物	7次調査 2・3区出土土器実測図(1:4)
図版 2	遺物	7次調査 5区出土土器実測図(1:4)
図版 3	遺物	7次調査 4・5区出土土器実測図(1:4)
図版 4	遺物	7次調査 7区出土土器実測図(1:4)
図版 5	遺物	7次調査 8区出土土器実測図(1:4)
図版 6	遺物	7次調査 8区出土木製品実測図(1:4)
図版 7	遺構	1 7次調査 2区全景(北から) 2 7次調査 3区全景(北西から)
図版 8	遺構	1 7次調査 5区全景 平安時代第1面(北から) 2 7次調査 5区全景 平安時代第2面(北から)
図版 9	遺構	1 7次調査 7区南壁(北東から) 2 7次調査 7区SX26土器出土状況(西から) 3 7次調査 8区全景(北から)
図版 10	遺構	1 8次調査 1区全景(北から) 2 8次調査 1区三条大路北側溝と路面(北から) 3 8次調査 2区全景(北から)

- 図版11 遺物 7次調査2・3区出土土器
- 図版12 遺物 7次調査5区出土土器
- 図版13 遺物 7次調査7区出土土器
- 図版14 遺物 7次調査8区出土土器
- 図版15 遺物 1 7次調査5区SD58 (SX39) 他出土須恵器壺
2 7次調査5区SD58 (SX39) 出土土馬
- 図版16 遺物 7次調査8区流路下層出土木製品

挿 図 目 次

図1	調査位置図および周辺調査(1:5,000)	2
図2	2区調査前全景(東から)	5
図3	4区調査風景(西から)	5
図4	2区遺構平面図(1:100)	6
図5	2区南壁断面図(1:100)	7
図6	3区遺構平面図(1:100)	8
図7	3区北壁断面図(1:100)	8
図8	4区遺構平面図(1:100)	9
図9	4区南壁断面図(1:100)	9
図10	5区北壁断面図(1:100)	10
図11	5区遺構平面図(1:100)	11
図12	6区遺構平面図(1:100)	12
図13	6区南壁断面図(1:100)	12
図14	7区遺構平面図(1:100)	13
図15	7区南壁断面図(1:100)	13
図16	8区遺構平面図(1:100)	14
図17	8区北壁断面図(1:100)	14
図18	平安時代遺構配置図(1:400)	15
図19	3区SX46出土木製人形実測図(1:2)・写真	17
図20	1区調査前全景(南から)	19
図21	2~4区調査前全景(北から)	19
図22	1区遺構平面図(1:100)	20
図23	1区西壁断面図(1:100)	20

図24	1区北壁断面図(1:50)	21
図25	2~4区遺構平面図(1:100)	22
図26	2~4区遺構断面図(1:100)	23
図27	1区出土古墳時代土師器実測図(1:4)	24
図28	1区出土平安時代以降遺物実測図(1:4)	24
図29	1区SX21出土古墳時代土師器	25
図30	1区だるま窯検出状況(西から)	26

表 目 次

表1	周辺の調査一覧表	3
表2	7次調査遺構概要表	7
表3	7次調査遺物概要表	16
表4	8区流路下層出土木製品観察表	17
表5	8次調査遺構概要表	19
表6	8次調査遺物概要表	25

付 表 目 次

付表1	7次調査出土土器類観察表	27
付表2	8次調査1区出土遺物観察表	38

平安京右京三条四坊十三・十四町、 四条四坊十五・十六町跡

1 . 調査経過

葛野大路道路改築事業に伴い、三条通以南の現葛野大路通東側（7次調査）と、三条通北側（8次調査1区）において発掘調査、御池通南側の京都市配水事務所駐車場内（8次調査2～4区）において試掘調査を実施した。

調査地は平安京右京三条四坊十三・十四町、四条四坊十五・十六町にあたり、平安京の西端に位置する。四坊の地は多くの官衙の厨家または領地に充てられていた。『拾芥抄』西京図によれば、三条四坊十三町は織部司の厨家である織部町、十四町は左衛門府の厨家である左衛門町、四条四坊十五町は小泉荘、十六町は太宰府の出先機関の可能性があるとされる大貳町にあたる。

7次調査の東側には、弥生時代から古墳時代の遺跡である山ノ内遺跡があり、また太子道から御池通間の調査（1～3次調査）でも弥生時代から古墳時代の遺物を確認しているため、その時期の遺構の検出も期待された。

周辺の調査では平安時代に該当する明確な遺構は確認されていなかったが、事前調査となる6次調査で平安時代の遺物がまとまった状態で検出した。そのため7次調査では、6次調査の調査区を包含する調査区を設定した。

2 . 周辺の調査

当工事に伴う調査は、1988年の試掘調査から開始し、御池通から太子道間で1～3次調査、四条通から御池通間で4次調査から今回の7・8次調査を実施した。以下、回数ごとに主な成果を述べる。

1次調査 古墳時代の遺構は1・4～6区で検出した。北北東から南南西方向の自然流路を3条検出しており、遺物の遺存状態が良好なことから、付近に集落の存在をうかがわせる。平安時代の遺構は4区で二条大路路面、2区で東西溝2条を検出したが推定押小路より約5m北側の位置にあたるため、押小路に関連するものかは不明。室町時代から江戸時代の遺構は、耕作に伴う小溝を各調査区で検出した¹⁾。

2次調査 7区で古墳時代の土壌状遺構の一部分、3～5・7区で平安時代以前の動物の足跡と考えられる窪み群、6区で平安時代の冷泉小路北側溝およびそれに関連する東西方向の柱穴列を検出した。また、その溝より南へ0.7mの位置で、平安時代末期から鎌倉時代の冷泉小路北側溝とみられる東西溝を検出した。その溝に合流する南北溝も検出した。室町時代から江戸時代の東西・南北方向の素掘りの耕作溝は、重複した状態で多数検出され、各調査区で認められた²⁾。

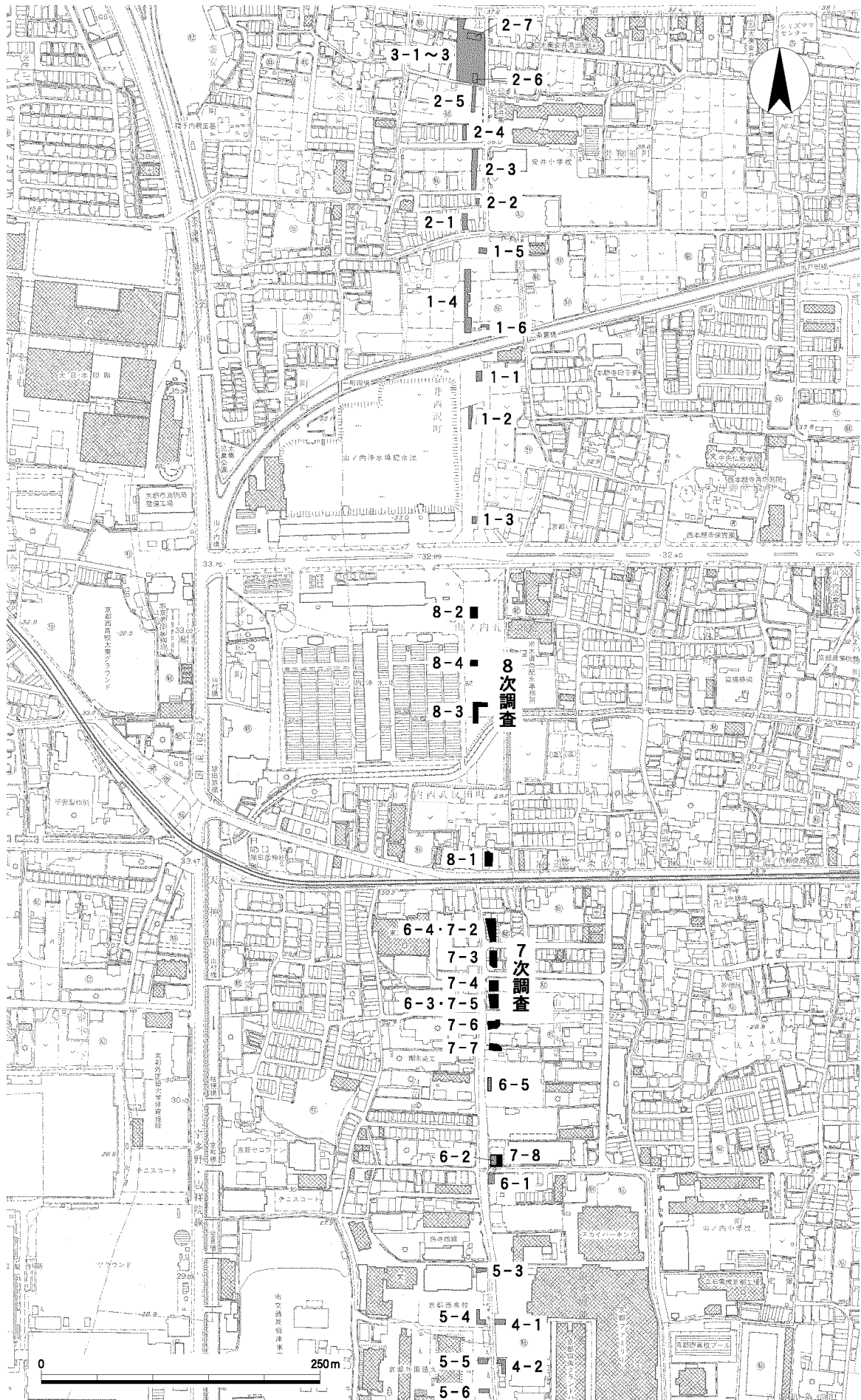


図1 調査位置図および周辺調査 (1 : 5,000)

3次調査 この調査は2次調査の調査成果を踏まえ、調査区が重複する状態で行われた。遺構には伴わないが、弥生時代から古墳時代の土器が微量ながら出土している。平安時代前期の遺構は、整地層と冷泉小路北側溝を検出し、平安時代後期の遺構は、東西方向の堀または柵になると思われる柱穴を5基、平安時代末期から鎌倉時代、室町時代から江戸時代の遺構は、耕作溝が検出されている³⁾。

4次調査 室町時代後半の幅8m以上、深さ2.5m以上の南北方向の壕と、それ以降から現代に至る流路、江戸時代の耕作土層を検出した。この付近は室町時代の環濠式平城であったとする説もある西院城跡に近接しているため、検出した濠が城に関係する可能性がある⁴⁾。

表1 周辺の調査一覧表

調査区	年度	調査法	条坊	主な遺構	
1次	1-1	1988	試掘	右京三条四坊十六町	古墳の自然流路、室町～江戸の耕作溝
	1-2	1988	試掘	右京三条四坊十六町、押小路	平安の押小路東西両側溝、室町～江戸の耕作溝
	1-3	1988	試掘	右京三条四坊十五町	室町～江戸の耕作溝
	1-4	1988	試掘	右京三条四坊十六町、二条大路	古墳の自然流路、平安の二条大路路面、室町～江戸の耕作溝
	1-5	1988	試掘	二条大路	古墳の自然流路、室町～江戸の耕作溝
	1-6	1988	試掘	右京三条四坊十六町	古墳の自然流路、室町～江戸の耕作溝
2次	2-1	1989	発掘	右京二条四坊十三町、二条大路	室町～江戸の耕作溝
	2-2	1989	発掘	右京二条四坊十三町	室町～江戸の耕作溝
	2-3	1989	発掘	右京二条四坊十三町	平安以前の足跡状遺構、室町～江戸の耕作溝
	2-4	1989	発掘	右京二条四坊十三町	平安以前の足跡状遺構、室町～江戸の耕作溝
	2-5	1989	発掘	右京二条四坊十三町、冷泉小路	平安以前の足跡状遺構、鎌倉の冷泉小路北側溝、室町～江戸の耕作溝
	2-6	1989	発掘	右京二条四坊十四町、冷泉小路	平安前～中期の冷泉小路北側溝・柱穴列、平安末期～鎌倉の土壇状遺構、室町～江戸の耕作溝
	2-7	1989	発掘	右京二条四坊十四町	古墳の土壇状遺構、平安以前の足跡状遺構、室町～江戸の耕作溝
3次	3-1～3	1991	発掘	右京二条四坊十四町、冷泉小路	平安前期の冷泉小路北側溝、平安後期の柱穴群・土壇、室町の耕作溝、江戸以降の溝・井戸・土壇・柱穴
4次	4-1	1995	試掘	右京四坊四条十三町、錦小路・無差小路交差点内	室町後半の濠、室町以降の流路、江戸以降の耕作溝
	4-2	1995	試掘	右京四坊四条十三町、無差小路	4-1と同じ
5次	5-3	1996	試掘	右京四坊四坊十四町	古墳～室町後半の流路、室町後半の水田、江戸以降の水田
	5-4	1996	試掘	右京四坊四坊十三町・十四町、錦小路	古墳～室町後半の流路、江戸以降の水田
	5-5	1996	試掘	右京四坊四坊十三町	室町後半の土壇、江戸以降の水田
	5-6	1996	試掘	右京四坊四坊十三町	室町後半の土壇、江戸以降の土壇・水田
6次	6-1	2000	試掘	右京四坊四坊十四町	時期不明の流路
	6-2	2000	試掘	右京四坊四坊十五町、無差小路・四坊坊門小路交差点内	古墳の流路、平安前期の包含層
	6-3	2000	試掘	右京四坊四坊十六町、無差小路	平安前期の無差小路西側溝・土壇、室町～江戸の耕作溝
	6-4	2000	試掘	右京四坊四坊十六町、無差小路	平安の土壇、江戸以降の耕作溝
	6-5	2000	試掘	右京四坊四坊十五町	平安の土器を含む湿地状堆積

5次調査 3・4区で古墳時代から室町時代の流路、5区では室町時代後半の土壌を検出した。全調査区で室町時代後半から江戸時代以降の耕作土層を検出した。6区で平安時代前期後半の包含層を検出し、遺物がまとまった状態で出土している⁵⁾。

6次調査 2区で古墳時代の流路と平安時代前期の遺物包含層を検出した。流路内から出土した土器類は、磨滅しておらず状態が良い。3区で平安時代の無差小路西側溝や良好な遺物を含む土壌などを検出した。4区では平安時代の土壌、江戸時代以降の耕作溝を検出した。5区では上層に平安時代の土器を含む湿地堆積層を検出した⁶⁾。

註

- 1) 本 弥八郎「平安京右京三条四坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 2) 堀内明博「平安京右京二条四坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 3) 山本雅和「平安京右京二条四坊」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 4) 上村憲章「平安京右京四条四坊」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 5) 上村憲章「平安京右京四条四坊」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 6) 伊藤 潔「平安京右京四条四坊」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年

3. 7次調査

(1) 経過

調査区は、葛野大路と三条通の交差点から南へ、約30mから250m間の現道路東側に設定した。調査対象地は右京区山ノ内池尻町・西裏町に所在する。

前年度に行った試掘調査（6次調査）の成果に基づき調査区を設定し、予め北から順に調査区に番号を付した。当初8箇所に調査区を設定する予定であったが、協議の結果、1区は次年度に延期することになったため、2区から8区の7箇所の調査となった。2～5区は平安京右京四条四坊十六町の東端に、6区は無差小路と六角小路の交差点部分に、7区は四条四坊十五町に、8区は十五町の南東角で、無差小路と四条坊門小路の交差点部分に各々該当する。6次調査により平安時代前期の土器群が確認されているため、その時期の遺構が検出されることが予測できた。また、弥生時代から古墳時代の遺跡である山ノ内遺跡にも近接するため、平安時代以前の遺構の検出も期待された。調査は2001年6月11日に3区から開始し、10月24日にすべての調査区での作業を終了した。



図2 2区調査前全景（東から）



図3 4区調査風景（西から）

(2) 遺構

2区（図4・5、図版7）

この調査区は6次調査の4区を拡張して設定した。

基本層序は表土下1.0～1.2mまで現代盛土・耕作土・床土で、以下、黒褐色砂泥の遺物包含層、平安時代の遺構面となり、にぶい黄色粘土層等の地山となる。地山の標高は27.90～28.10mである。遺構の遺存状態はおおむね良好であるが、調査区北部を下水道管が横断し、またそれより以北は著しく攪乱を受けており、遺構はわずかに残る程度である。

平安時代前期に属する遺構は、柱穴・土壇・溝などがある。

検出した柱穴の柱間の距離から想定して西・南に調査区を拡張した結果、1間×3間分の建物1（柱穴P26・27・33・32・31・63・64）、建物2（柱穴P61・59・24・25・57・58）を検出し

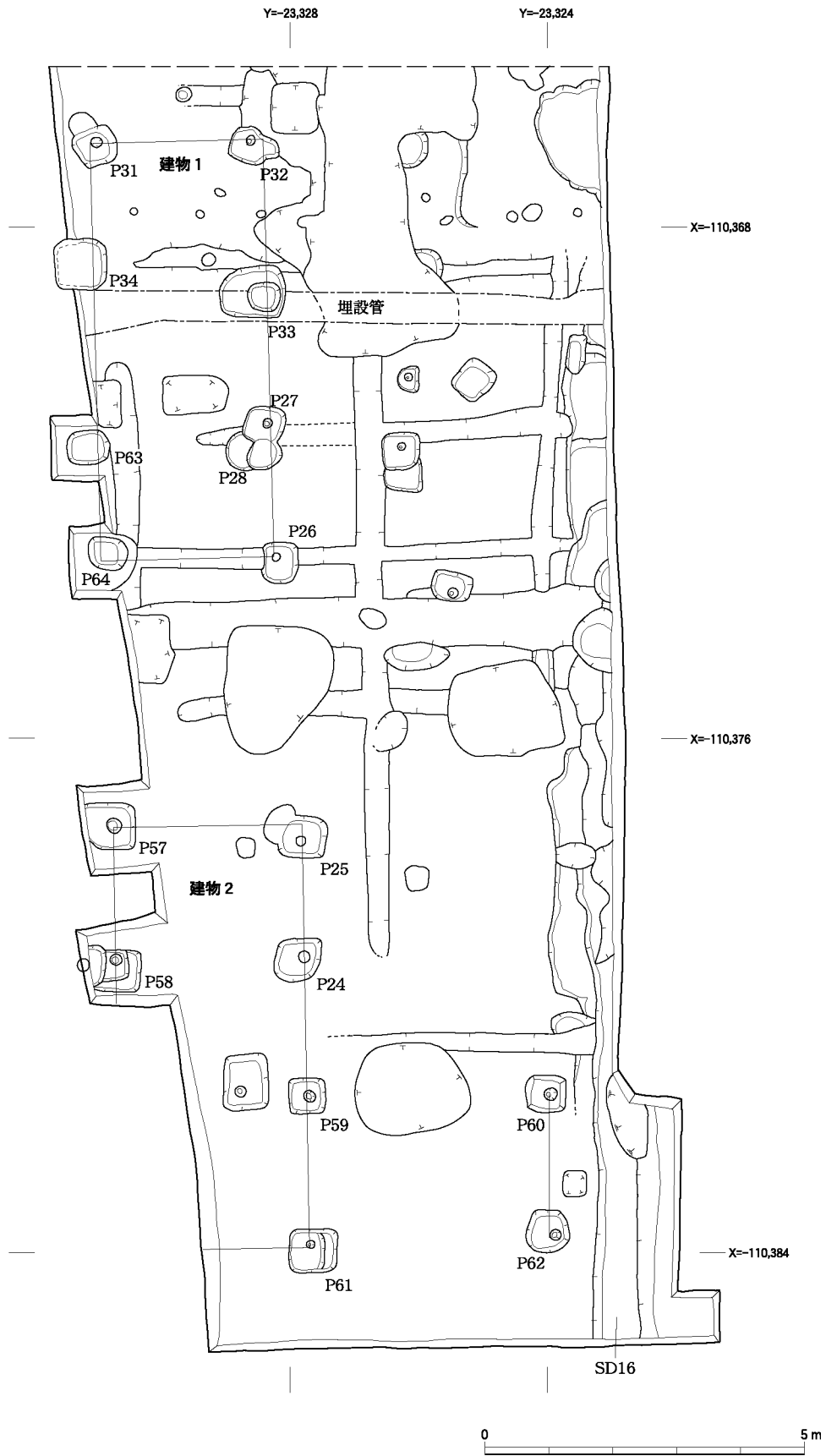


図4 2区遺構平面図(1:100)

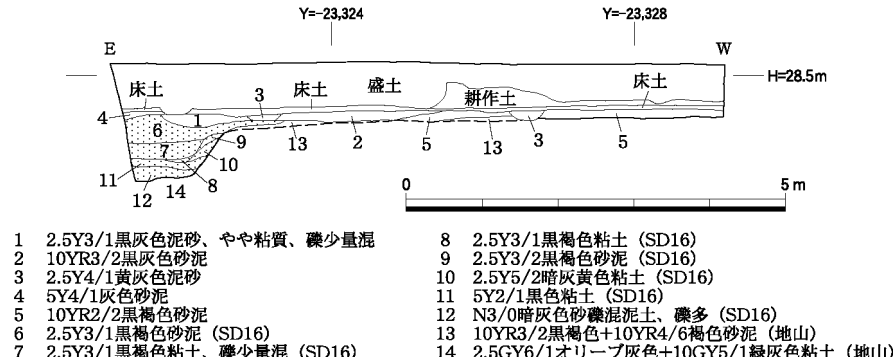


図5 2区南壁断面図(1:100)

た。建物1・2はさらに西側に延びる可能性もあるため、規模、性格の詳細は把握できなかった。また柱穴P60・62は、無差小路西築地位置にあることから門と考えられる。

調査区東端で検出した溝SD16は、無差小路西側溝と推定される。この溝の西肩部を検出した。溝の大部分は調査区外に延びるため、調査区南端で東に拡張した結果、東西幅1.3m以上を確認した。断面の形状は逆台形である。埋土は肩部は暗灰黄色・黒色粘土層で、溝内は黒褐色腐植土層となり、下層は暗灰色砂礫層となる。

近世以降の遺構には、東西・南北方向の耕作に伴う溝がある。

3区(図6・7、図版7)

基本層序は表土下0.5~0.6mまで現代盛土・耕作土・床土、以下、平安時代の遺構面、黒褐色粘土層の古墳時代の遺物包含層、灰オリーブ色粘土層の地山となる。地山の標高は27.60mである。

検出した主な遺構としては、古墳時代の遺物包含層の下で検出した水溜め遺構SX47、平安時代前期の南北方向の溝SD44、南壁際で検出した落込みSX46、近世以降の耕作に伴う小溝・柱穴、などである。

SX47は古墳時代の遺物包含層下で検出した径約1.6mほどの円形を呈する水溜め状の遺構である。底部に杭が5本打ち込まれていた。埋土は暗緑灰色粘土・黒色泥土・礫を含む灰色泥土層で、灰色泥土層より古墳時代前期布留式併行期の椀・高杯・甕が押しつぶされた状態で出土した。

平安時代前期のSD44は、幅2.5m、深さ0.4mを測り、埋土は暗灰黄色泥砂層・黄灰色泥砂層・

表2 7次調査遺構概要表

時代	遺構						
	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区
古墳時代前期	遺物包含層	遺物包含層、水溜め状遺構	遺物包含層	遺物包含層			流路内下層
古墳時代中期							流路内中層
平安時代前期	建物(柱穴)、溝	溝、流路状遺構	溝、柵列	溝、柵列		不明遺構	流路内上層
近世以降	耕作溝	耕作溝	耕作溝	耕作溝	耕作溝	耕作溝	耕作溝

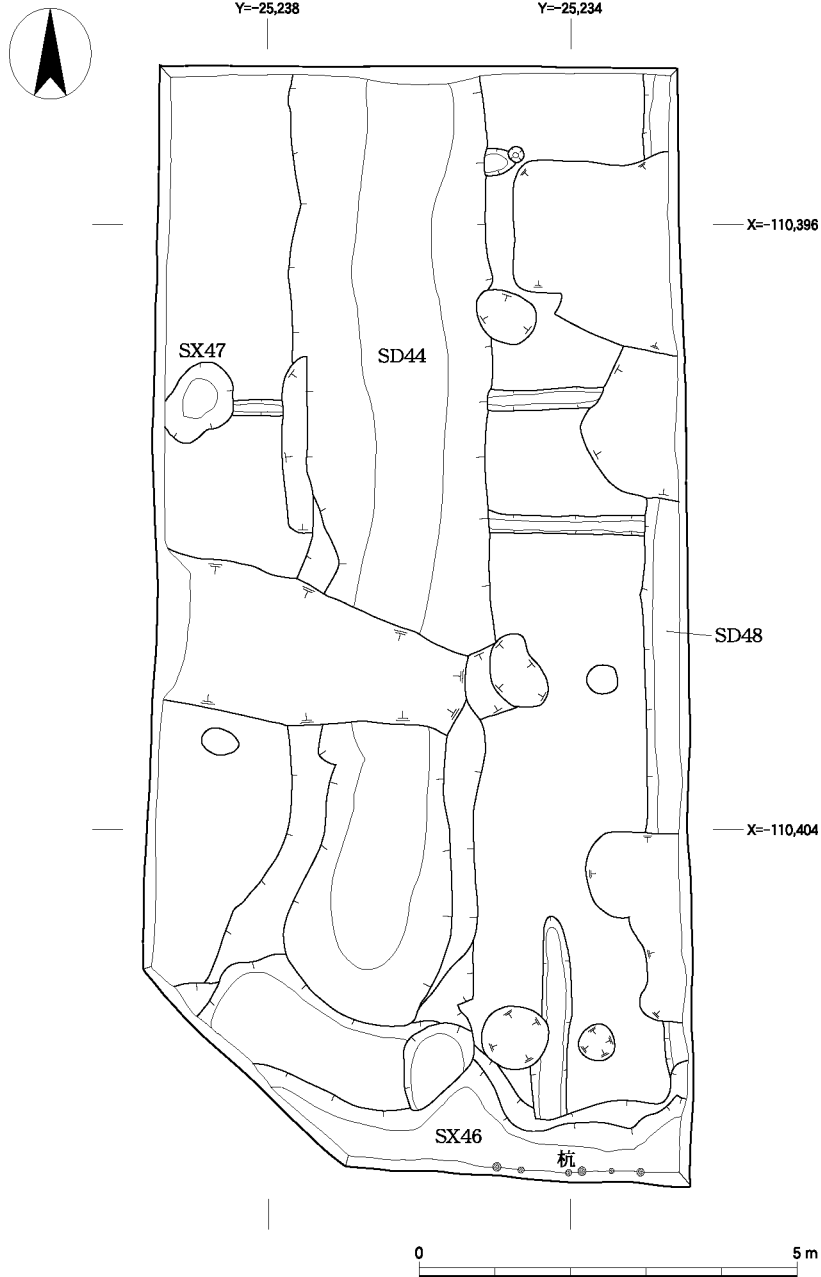
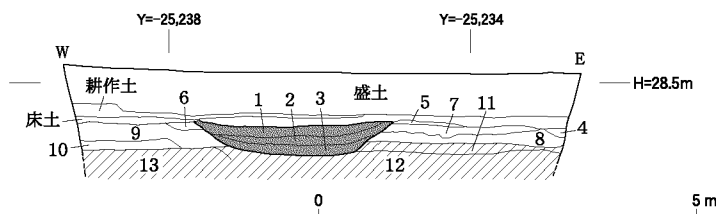


図6 3区遺構平面図(1:100)



- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥、礫少量 (SD44) | 8 2.5Y4/1黄灰色泥砂 (古墳時代包含層) |
| 2 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥、やや粘質 (SD44) | 9 2.5Y4/1黄灰色砂泥、粗砂混 |
| 3 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥、粘質 (SD44) | 10 2.5Y4/3オリーブ褐色泥砂 |
| 4 2.5Y4/1黄灰色砂泥 (SD48) | 11 2.5Y3/1黒褐色粘土 (地山) |
| 5 10YR5/2灰黄褐色粗砂 | 12 5Y5/2灰オリーブ色粘土 (地山) |
| 6 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 | 13 5Y6/4オリーブ黄色粘土 (地山) |
| 7 10YR4/4褐色砂礫 | |

図7 3区北壁断面図(1:100)

黄灰色粘土層・黒褐色粘土層などに層分けできる。出土遺物は小片ではあるが各層間で接合するため、時期差は認められない。

SX46は南壁際で検出した深さ1.2m以上の落込みである。底付近に径10～15cmの丸杭が6本、東西方向に打ち込まれているのを確認した。埋土は上層は砂を多く含む層、下層は粘土質のシルト層で礫を含み、この層から平安時代前期の土器類や人形、馬の骨、古墳時代後期の須恵器などが出土した。遺構の南側は調査区外なるが、流路状の堆積を示している。

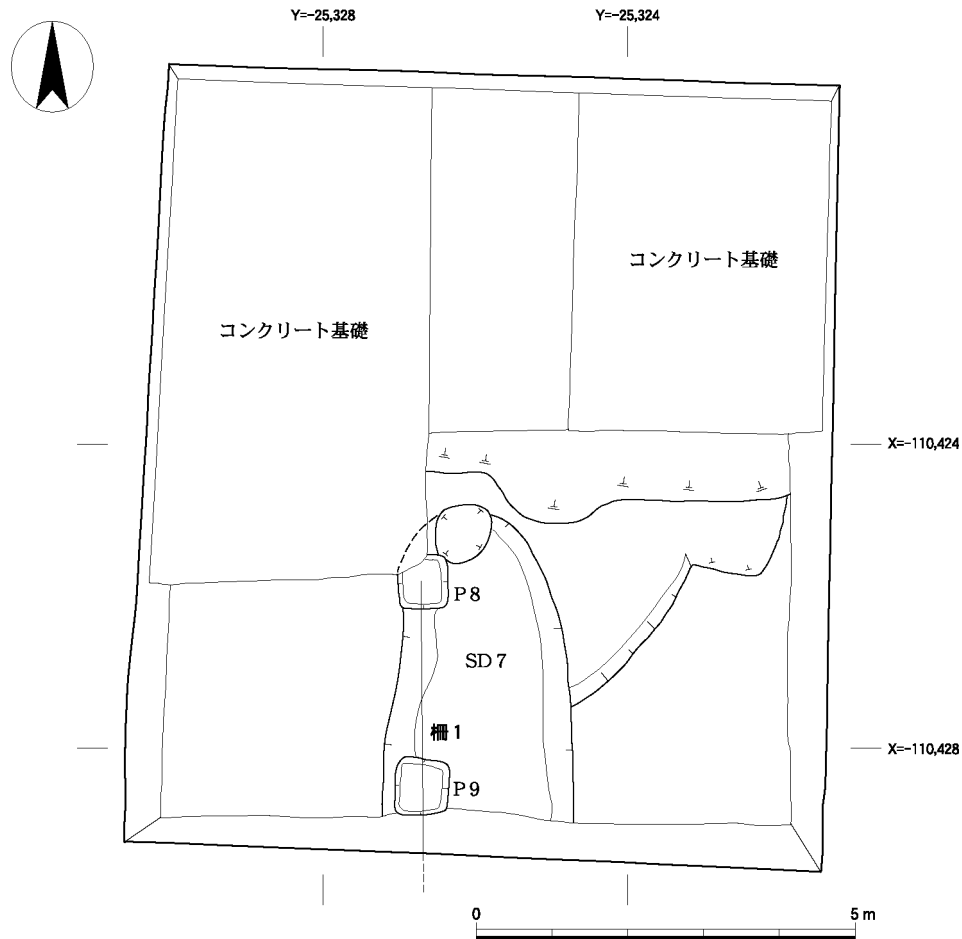
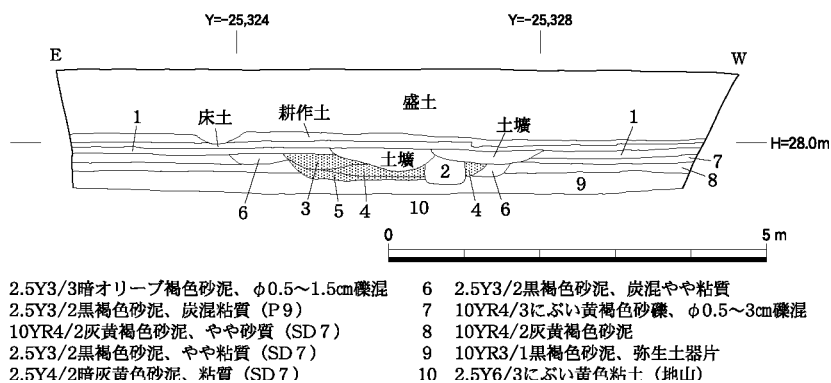


図8 4区遺構平面図(1:100)



- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥、φ0.5～1.5cm礫混 | 6 2.5Y3/2黒褐色砂泥、炭混やや粘質 |
| 2 2.5Y3/2黒褐色砂泥、炭混粘質 (P9) | 7 10YR4/3にぶい黄褐色砂礫、φ0.5～3cm礫混 |
| 3 10YR4/2灰黄褐色砂泥、やや砂質 (SD7) | 8 10YR4/2灰黄褐色砂泥 |
| 4 2.5Y3/2黒褐色砂泥、やや粘質 (SD7) | 9 10YR3/1黒褐色砂泥、弥生土器片 |
| 5 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥、粘質 (SD7) | 10 2.5Y6/3にぶい黄色粘土 (埴山) |

図9 4区南壁断面図(1:100)

SD48は調査区東端で検出した南北方向の溝であるが、明確な出土遺物がなく時期の限定はできない。また西肩部分のみの検出にとどまったため、規模は不明である。位置的に2区で検出した無差小路西側溝の延長であると思われる。

4区(図8・9)

基本層序は表土下0.8~1.0mまで現代盛土・耕作土・床土となり、一部断割調査を行った結果、弥生時代の土器片を含む黒褐色粘土層、にぶい黄褐色粘土層の地山となる。

検出した遺構は平安時代の柱穴P8・9の2基、南北方向の溝SD7である。4区は5区に隣接し、遺構は5区の延長となるため、概要は5区の項でまとめて記述する。

この調査区では3区で検出したSX46の南肩部の検出が期待されたが、調査区の北半部が建物基礎により攪乱を受けているため、検出できなかった。

5区(図10・11、図版8)

この調査区は6次調査の3区を包含して設定した。

基本層序は表土下0.8~1.1mまで現代盛土・耕作土・床土で、以下、平安時代の包含層、黒褐色から黒色泥土の古墳時代の包含層、にぶい黄橙色から黄褐色粘土の地山となる。

検出した主な遺構は、平安時代の柱穴・土壇・溝などがある。遺構は切り合い関係から2時期あり、平安時代前期に属する。中世の遺構は明確なものは検出されていない。近世以降は南北方向の杭列・耕作に伴う溝がある。

平安時代(第1面) 2.7m間隔で南北に並ぶ柵列1(4区P8・9、5区P10・45・46)と、2区と同様の建物跡の一部と考えられる建物3(P15・55・44)建物4(P51・40・35)がある。

平安時代(第2面) 3区SD44の延長にあたると思われる溝(4区SD7・5区SD58)がある。溝の埋土は灰黄褐色砂泥・黒褐色砂泥・暗灰黄色砂泥層で、SD58の上層で多量の炭と共に、遺物が集中する場所(SX39)がある。SX39からは、平安時代前期の遺物が多量に出土した。特に須恵器瓶子が30個体以上、土馬が数点出土しており、特異である。

地山直上には黒褐色から黒色砂泥の古墳時代前期の遺物包含層が認められたが、遺構は検出されなかった。

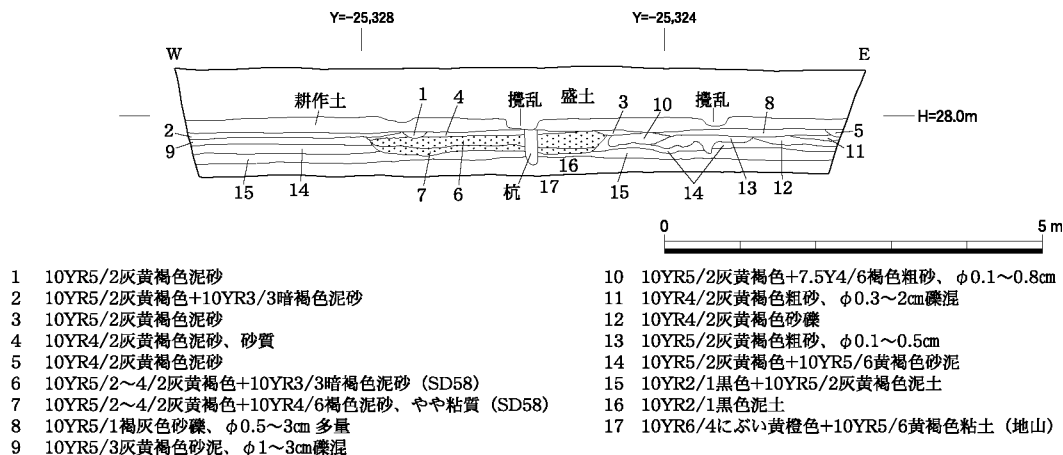
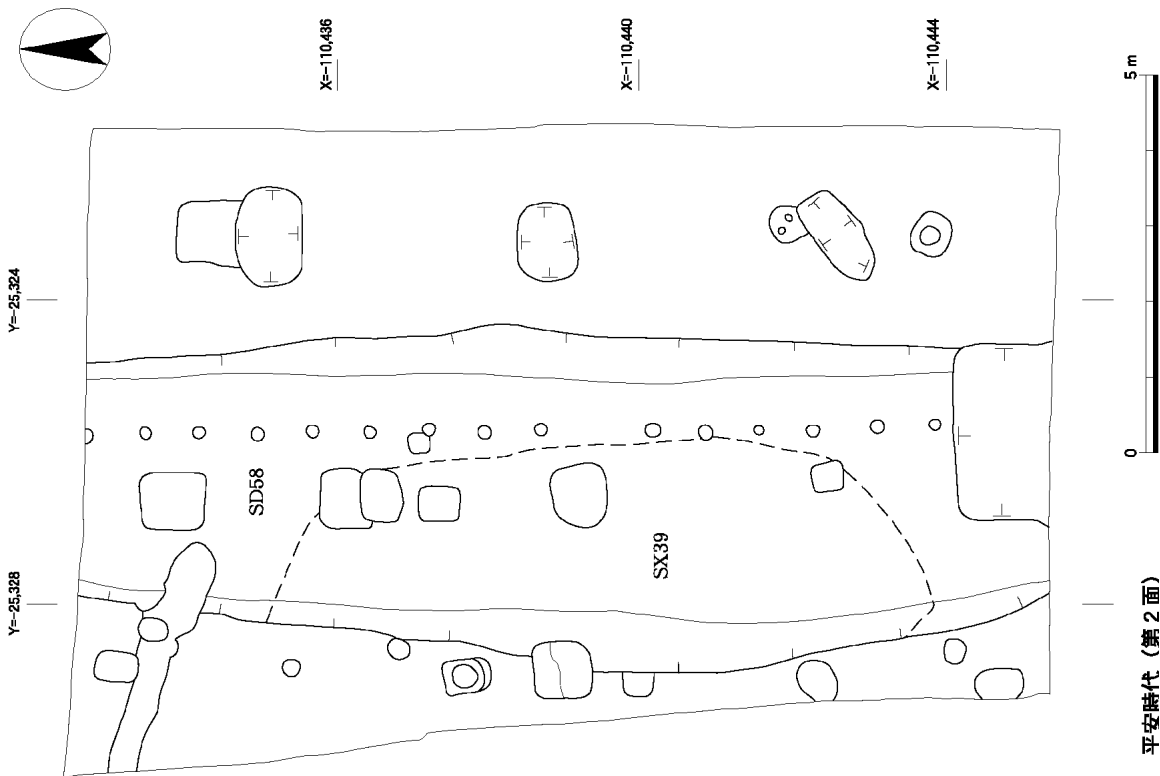
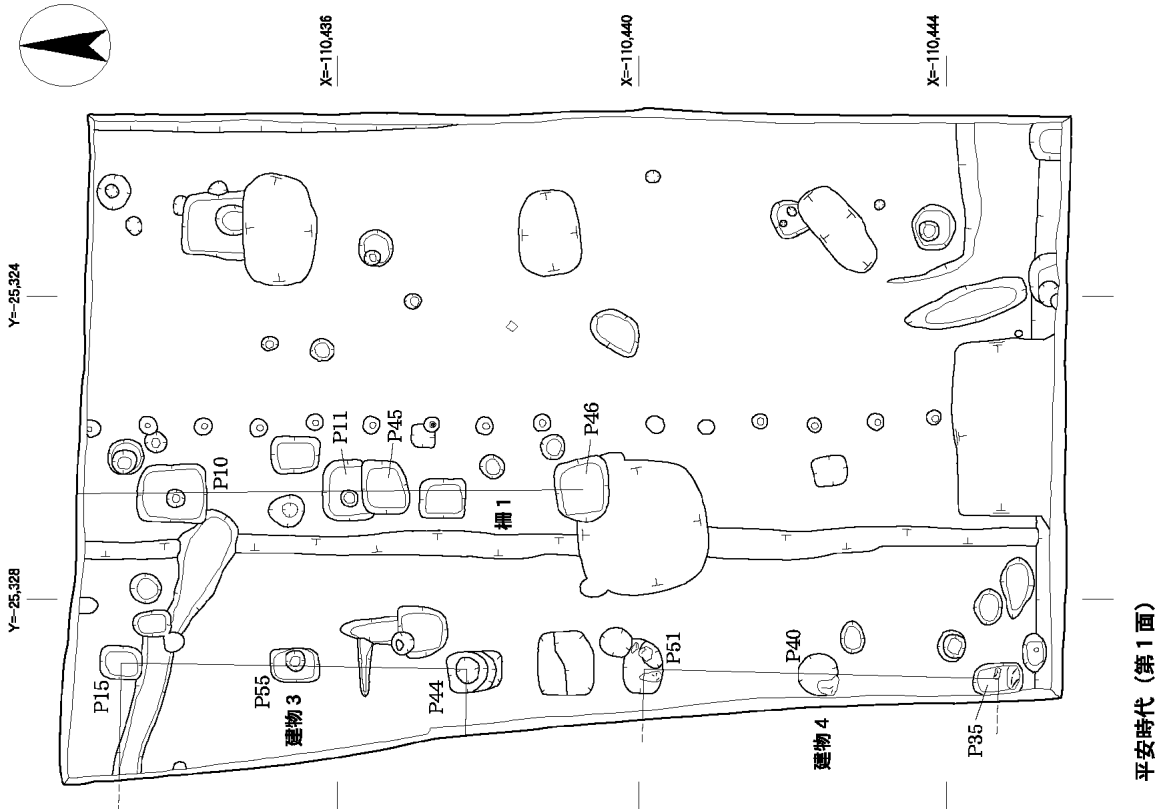


図10 5区北壁断面図(1:100)



平安時代 (第2面)



平安時代 (第1面)

図11 5区遺構平面図(1:100)

6区 (図12・13)

基本層序は盛土・耕作土・床土・暗灰黄色～暗褐色砂泥層・地山となる。

無差小路と六角小路の交差点部分に設けた調査区であるが、道路に関連する遺構は検出されなかった。道路中央部分にあたる箇所は、近世から現代までの境界を示す溝・屏が重複して検出された。それらによって平安時代の遺構は大きく削平されたものと思われる。

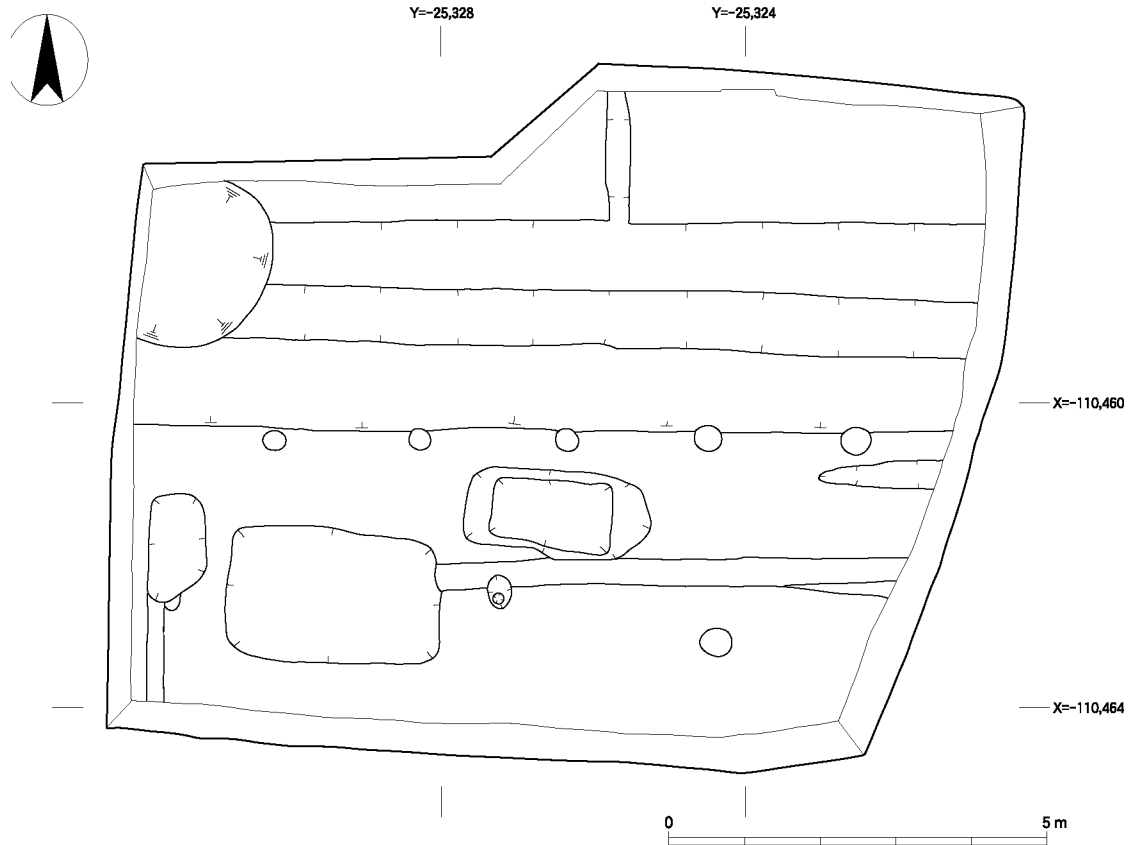


図12 6区遺構平面図 (1:100)

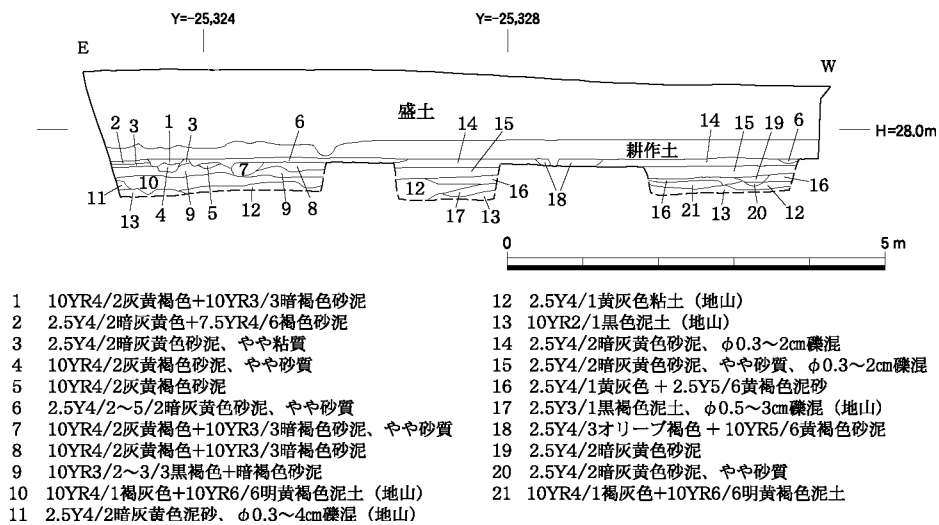


図13 6区南壁断面図 (1:100)

7区(図14・15、図版9)

十五町の北東部に設定した調査区であるが、中央部を既存埋設管(水道・下水道)が横断しており、遺構の様相を詳細に知ることができなかった。

基本層序は盛土・耕作土・床土・暗灰黄色泥砂となり、表土下1.0m(標高26.30m)で平安時代の遺構面となり、以下、黒色泥土層(湿地状堆積土)・黄灰色砂泥・灰黄色粘土層の地山となる。地山の標高は26.00mである。黒色泥土層以下からは遺物は出土していない。

検出した遺構としては近世以降の耕作に伴う小構群、時期不明の土壇・小穴などと、調査区南半で検出した形状不明の遺構SX26がある。

SX26は東西幅6.5m、南北1.4m以上、深さ0.25mのみを確認した。埋土は暗灰黄色泥砂層・小礫を含む暗灰黄色泥砂層・炭を多量に含む黄灰色砂泥層の3層に大きく分層でき、下層の炭を多量に含む層からは平安時代前期前半代の土師器・須恵器が多量に出土した。

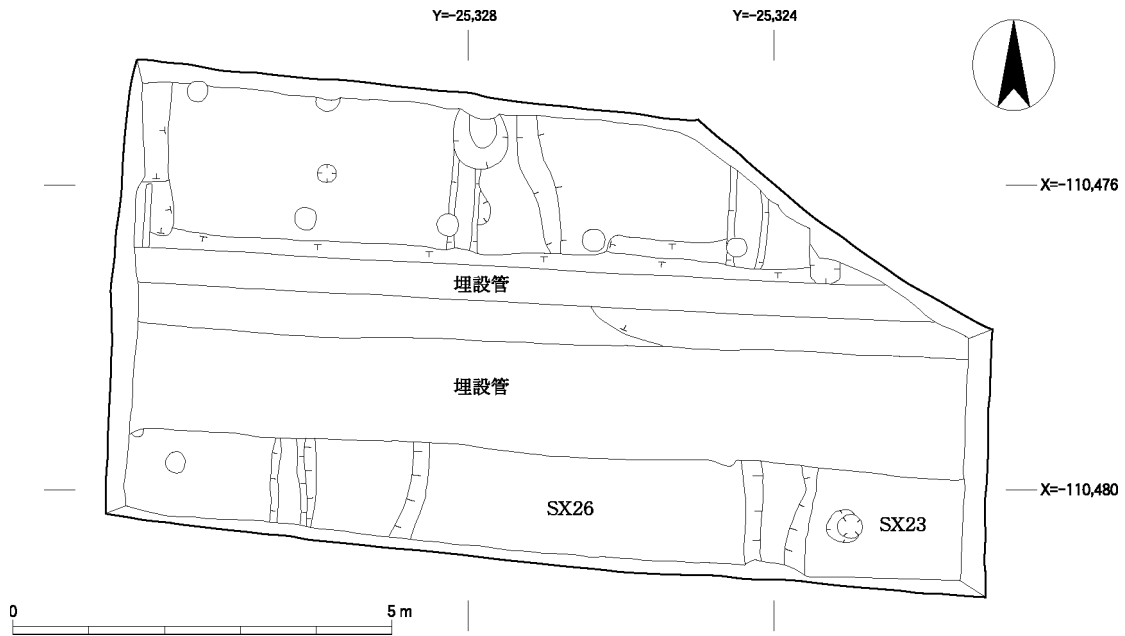


図14 7区遺構平面図(1:100)

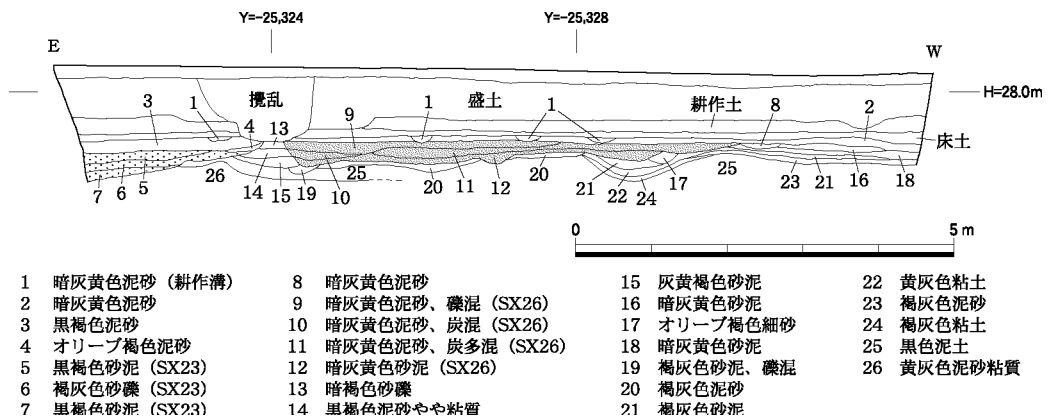


図15 7区南壁断面図(1:100)

また調査区東端で落込SX23の西肩部を検出した。埋土は黒褐色泥砂層・褐灰色砂礫層・礫を含む黒褐色砂泥層で、東西幅2.0m、南北1.3m以上、深さ0.4mのみを確認した。東に緩やかに傾斜するが、東側が調査区外へ延びるため、形状は不明である。埋土から少量であるが平安時代の土器類が出土した。

8区（図16・17、図版9）

この調査区は6次調査の2区を包含して設定した。

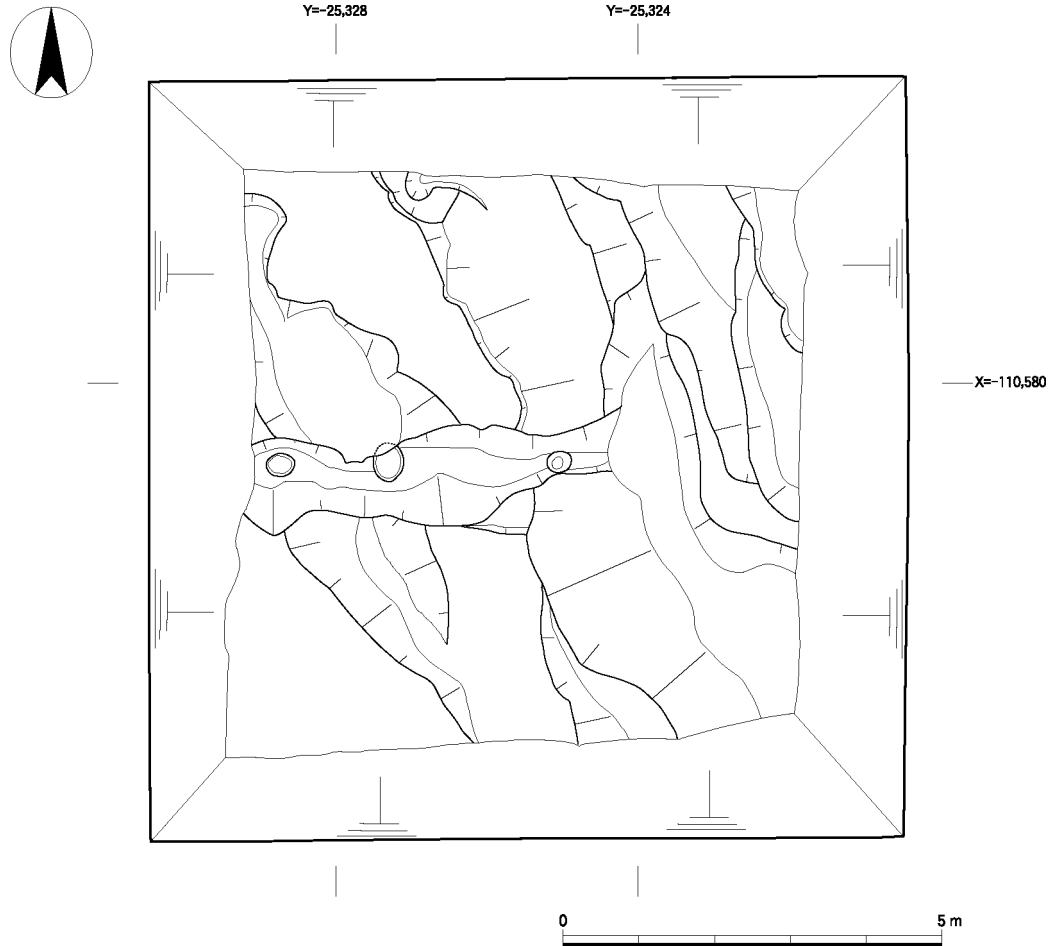


図16 8区遺構平面図（1：100）

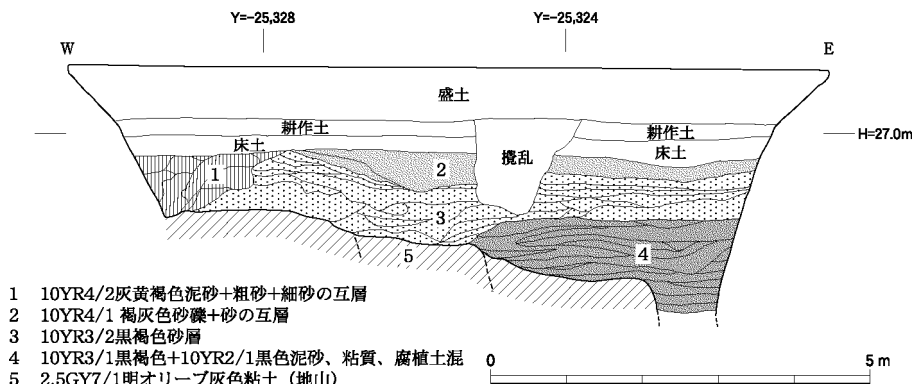


図17 8区北壁断面図（1：100）

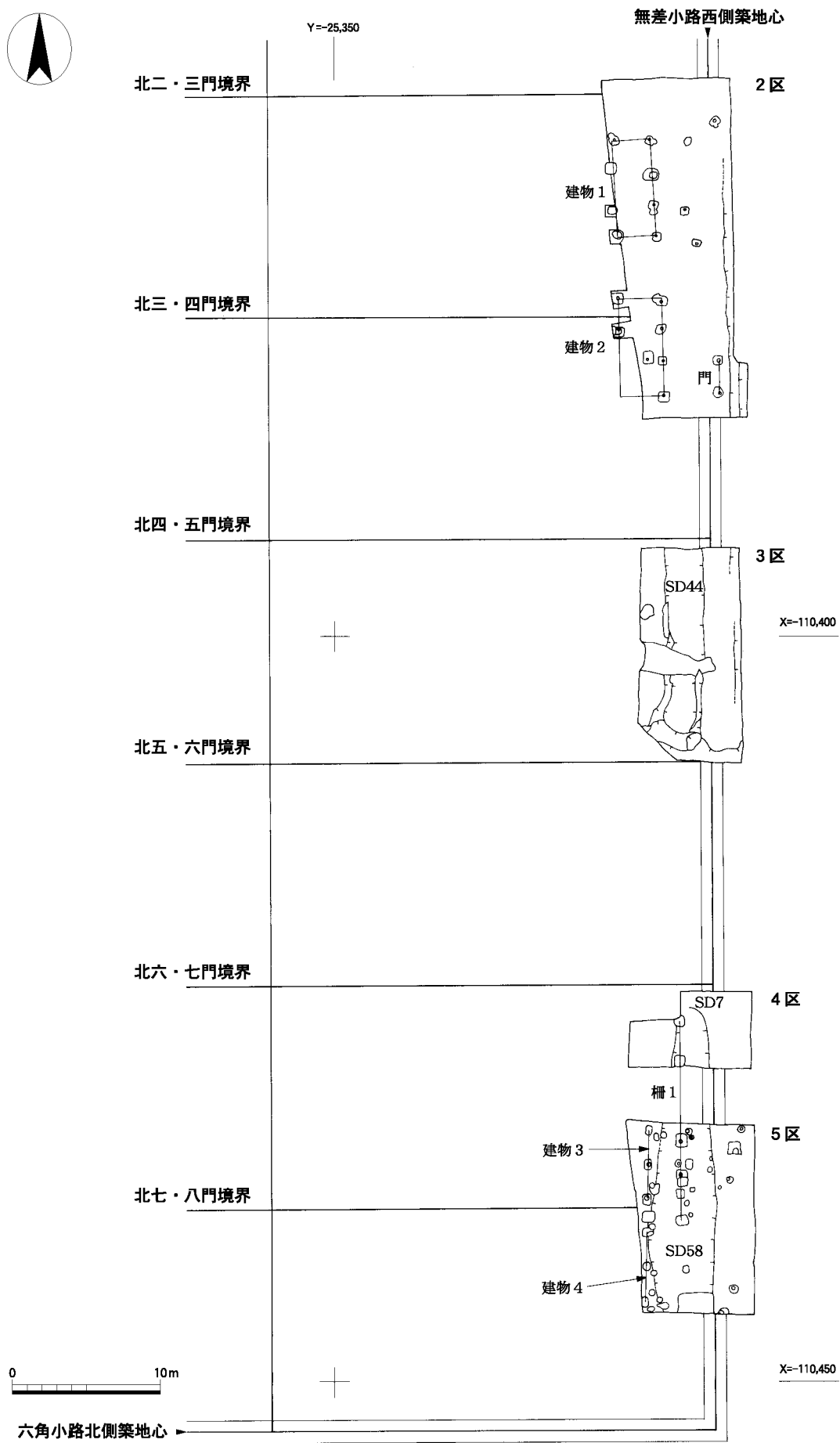


图18 平安時代遺構配置図 (1 : 400)

基本層序は表土下0.8～1.0mまで盛土・耕作土・床土で、以下古墳時代前期から中世以降までの北西方向から南東方向へ流れる自然流路内の堆積層となり、埋土は出土遺物から大きく4層に分けられる。最上層は粗砂と礫の互層で、磨滅した須恵器片と中世以降と思われる土師器細片が1片出土したのみであり時代は不明である。上層は褐灰色系の礫混じりの泥砂（6次調査の西壁8層など）で、平安時代前期の遺物が一定量出土した。中層は粗砂や木片を含む黒褐から黒色砂泥層で古墳時代の須恵器杯身完形品などが出土した。下層は黒褐から黒色腐植土・粘質土層などから古墳時代前期（布留式併行期）の土師器小型丸底壺の完形品や高杯・甕などと共に木製農具・工具が出土した。遺物は最上層以外は磨滅痕もなく非常に良い状態で出土している。

（3）遺物（図19、図版1～6・11～16）

弥生時代の遺物は2～5区古墳時代遺物包含層に混入していたものと、8区流路下層などから出土した。土器類には壺・甕・高杯がある。石器類は2区で石鏃・石核が、3区で石包丁片が出土した。

古墳時代前期（布留式併行期）の遺物は3区SX47、8区流路下層、2～5区古墳時代遺物包含層などから出土した。土器類は布留式併行期で小型丸底壺・小型器台・高杯・椀・甕などがある。

木製品は8区流路下層から出土した。曲柄又鍬（174・175）、鎌柄（176）、杵（177）、平鍬（178）などの農具類がある。

古墳時代中期から後期の遺物は、8区流路中層および平安時代の遺構に混入して出土した。土師器甕、須恵器杯蓋・杯身・甕・椀・無蓋高杯・甕など、5世紀後半～7世紀前半代の遺物である。ほとんどが小片であるが、8区流路内からは6世紀中頃の杯身完形品2点、無蓋高杯杯部が出土した。

平安時代前期の遺物は各調査区から出土しているが、特に5区SD58（SX39を含む）、7区

表3 7次調査遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代	弥生土器・石鏃・石包丁・石核		弥生土器8点		
古墳時代前期	土師器・木製品・杭		土師器11点、木製品5点		
古墳時代中期～後期	土師器・須恵器		須恵器4点		
平安時代前期	土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・瓦・土馬・木製品		土師器74点、須恵器53点、緑釉陶器7点、灰釉陶器6点、黒色土器4点、土馬7点、木製人形1点		
平安時代中期～中世	土師器・瓦器・輸入陶磁器				
計		69箱	180点（11箱）	32箱	26箱

コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より9箱多くなっている。

SX26、8区流路内埋土などから比較的まとまって出土した。土師器・須恵器が大半をしめ、黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器類が若干出土している。

土師器は杯A・B、皿A・B、椀、高杯、蓋、壺E、甕などがある。杯は口径13～15cm前後のものが多く、高台の付く杯Bは18～20cm前後のものと27cmの大型のものがある。5区から出土した椀で口縁内外面に煤が付着したものや、皿の内外面に朱塗りされた痕跡が認められるものがある。

須恵器は杯A・B、皿、蓋、壺、鉢、甕、平瓶などがあり、蓋はつまみの付くものとつかないものがある。2区で出土した杯の底部外面には判読不明であったが、墨書されているものが1点ある(9)。また、5区で出土した把手付壺(80)は体部の一部であるが、頸部から体部上段と把手に自然釉がかかり、実測図では把手は片側だけとしたが、両側につく可能性もある。器壁も薄く丁寧な作りである。

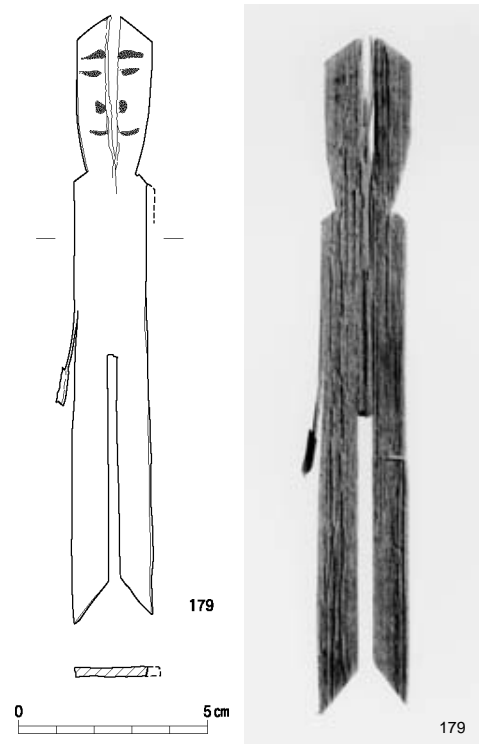


図19 3区SX46出土木製人形
実測図(1:2)・写真

5区SX39から須恵器小型壺、いわゆる瓶子が約30個体ほどまとまって出土した(図版15-1)。体部は、卵型・肩の張るもの・全体に丸みをもつものの3種類がある。1個体であるが内面に漆の付着したもの(88)がある。

木製品は、3区SX46から9世紀前半の遺物とともに、人形(179)、箸が出土した。

特殊な遺物として土馬の一部が4区より1点(70)、5区より6点(58～62・180)出土した(図版15-2)。

平安時代中期以降の遺物は、輸入陶磁器、瓦器などの小片が数点出土しているにすぎない。

その他、遺構に伴っていないため時期は不明であるが2区・6区で竈の破片が出土した。

なお、6次調査で出土した土器類は、今回の調査で出土したものと接合するものがあるため、それぞれの調査区に統合して掲載した。

表4 8区流路下層出土木製品観察表

No.	器種器形	法量(cm)	形態・調整の特徴
174	木製品 曲柄又鋏	残長 64.0 幅 5.6	笠部から刃部の片側のみ。笠部から離れて二股に分かれる。
175	木製品 曲柄又鋏	残長 32.0 幅 5.0	笠部から刃部の片側のみ。笠部から離れて二股に分かれる。
176	木製品 鎌柄	残長 31.0 幅 3.2	柄の頭部に突起があり装着穴をもつ。柄はやや屈曲する。
177	木製品 杵	残長 41.1 幅 11.2	刃先は直線的である。泥よけの可能性もある。
178	木製品 平鋏	残長 16.1 幅 1.9	下半部が欠損、腐植が著しい。柄穴の周囲に隆起の痕跡がある。

(4) まとめ

調査地は平安京右京四条四坊十五町・十六町に位置する。『拾芥抄』西京図によれば十五町は小泉荘、十六町は「大貳町」(太宰府の高級官人の京中における厨家か)とされている。

右京の地は北辺から三条あたりまでは鷹ヶ峰扇状地の末端にあたり高燥の地をなしているが、それより以南は湿潤の地であった。

今までの当該地周辺の試掘・立会調査の成果では明確な平安時代の遺構は検出されておらず、古墳時代から中世末期頃の流路や沼沢地と考えられてきた。またシルト層の堆積状況などから湿潤な地であり、生活を営むためには大規模な開発を要する地域と理解されており、条坊制の施工も疑問視されていた。

しかし今回の発掘調査において平安時代前期の無差小路西側溝や建物跡などを検出し、9世紀前半から後半代の一括遺物も多数出土した。このことは平安京右京域の平安時代前期を復元する上で大きな成果といえる。

3・4・5区で検出した平安時代前期の南北方向の溝は、2区では検出されておらず、またそれより以南でも確認できなかった。

また調査地は弥生時代から古墳時代の遺跡である山ノ内遺跡に隣接している。今回の調査では古墳時代前期の水溜状の遺構(3区SX47)や遺物包含層、8区流路内より古墳時代前期から後期の磨滅痕の認められない完形品の土器類や木製品が出土しており、周辺に集落跡などの存在をうかがわせる。

4. 8次調査

(1) 経過

三条通から御池通間で発掘調査（1区）および試掘調査（2～4区）を実施した。発掘調査は三条通北側の宅地部分、試掘調査は京都市水道局配水事務所駐車場内である。調査対象地は発掘調査が平安京右京三条四坊十三町で、三条大路と無差小路の交差点部分にあたり、試掘調査は十四町の東端に位置し、姉小路と無差小路の交差点部分が推定される。

当該地周辺の調査は非常に少なく、いずれも葛野大路拡幅工事に伴うもので、御池通から北、太子道間との調査で、1次調査から3次調査がある。1～3次調査では、遺構密度は低いが古墳時代、平安時代から中世の遺構を検出している。前年に行った7次調査では、平安時代前期の遺構が良好な状態で検出され遺物も多数出土した。このことから今回の発掘調査においても、平安時代前期の遺構が良好な状態で検出されることが予測された。



図20 1区調査前全景（南から）



図21 2～4区調査前全景（北から）

(2) 遺構

1区（図22～24、図版10）

基本層序は現代整地層、耕作土層、平安時代の遺構面となる黒褐色砂泥層、にぶい黄褐色粘土

表5 8次調査遺構概要表

時代	遺構			
	1区	2区	3区	4区
古墳時代前期	溝状遺構			
平安時代	柱穴・溝・流路状遺構・ 溝状遺構			溝・小穴
中世	耕作溝	耕作溝・小穴	耕作溝・小穴	耕作溝・小穴
近世以降	だるま窯・攪乱土壌			

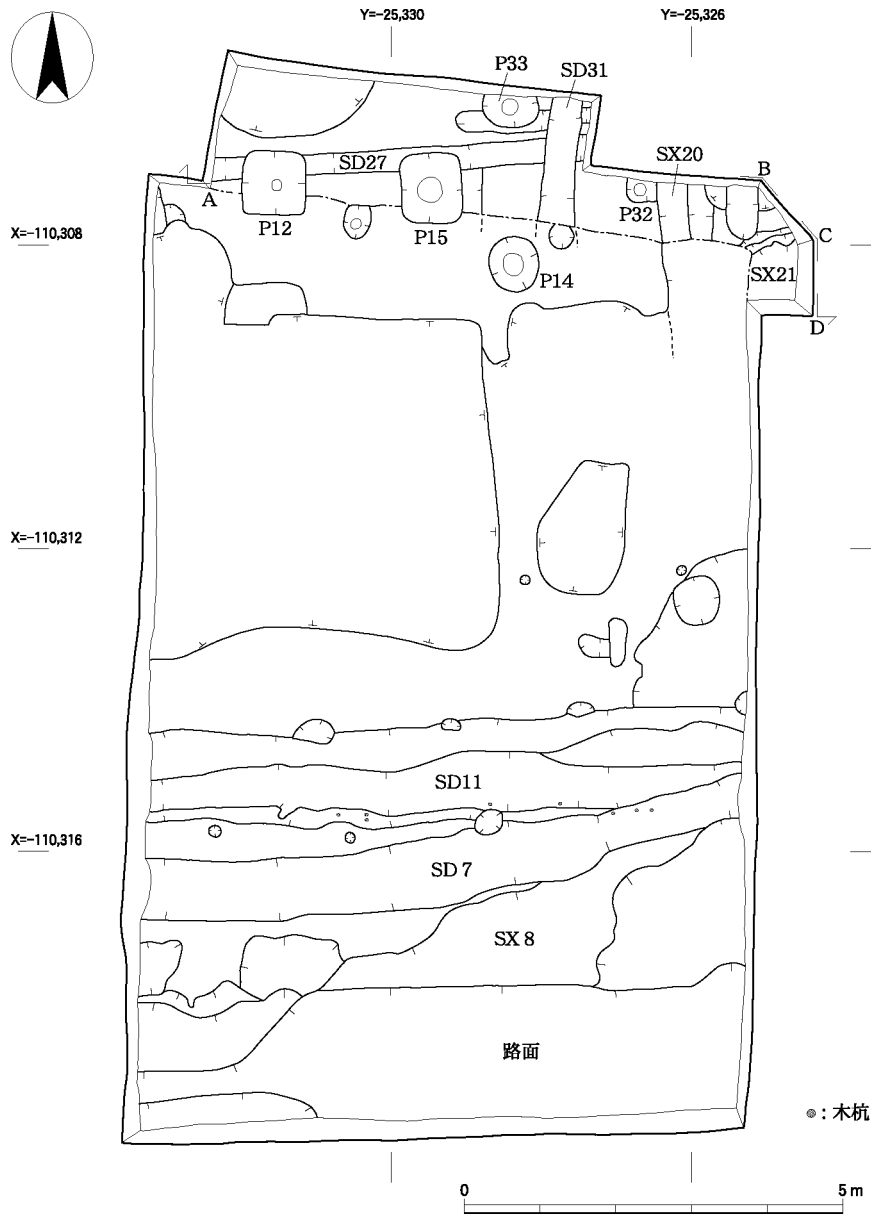
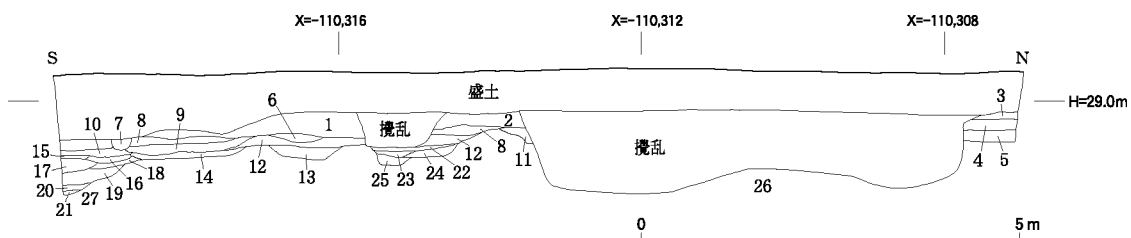


図22 1区遺構平面図(1:100)



- | | | |
|------------------------|-------------------------|------------------------|
| 1 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂 | 11 10YR4/2灰黄褐色泥砂、やや粘質 | 20 5Y3/1オリーブ黒色泥土、粗砂混 |
| 2 10YR4/2灰黄褐色泥砂 | 12 10YR3/1黒褐色泥土、粘質 | 21 5Y4/1灰色泥土、φ1~5cm礫混 |
| 3 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂 | 13 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂 (SD 7) | 22 10YR3/2黒褐色泥土、砂少量混 |
| 4 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂 | 14 10YR3/2黒褐色泥砂 | 23 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂 |
| 5 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂、粘質 | 15 5Y4/2灰オリーブ色細砂 | +10YR4/3にぶい黄褐色泥土混 |
| 6 2.5Y3/2暗褐色泥砂 | +10YR3/2黒褐色泥土 | 24 10YR3/1黒褐色泥土、やや粘質 |
| 7 10YR4/2灰黄褐色泥砂 (SD 6) | 16 10YR4/2灰黄褐色粗砂 | 25 10YR2/2黒褐色泥土 |
| 8 10YR3/2黒褐色泥砂、やや粘質 | 17 5Y3/1オリーブ黒色泥土 | 26 2.5Y6/6明黄褐色粘土 (地山) |
| 9 10YR3/2黒褐色泥砂 | 18 5Y3/1オリーブ黒色泥土、やや粘質 | 27 7.5GY7/1明緑灰色粘土 (地山) |
| 10 10YR3/2黒褐色泥砂、細砂少量混 | 19 2.5GY3/1暗オリーブ灰色泥土 | |

図23 1区西壁断面図(1:100)

層の地山となり、地山の標高は28.7mである。

古墳時代 北東隅で検出したSX21は、上部および南側が攪乱を受けており、西側はSX20に切られている。全体は不明であるが、SX20と同様に南北方向の溝と考えられる。古墳時代前期（布留式併行期）の高杯、甕などが一定量出土した。

平安時代 黒褐色砂泥上面で平安時代の遺構を検出した。調査区南半部では、推定三条大路北側溝SD11、三条大路路面などがある。SD11は攪乱4と重複しているが、幅1.2m、深さ0.2~0.45mを測る。埋土は黒褐色泥土層と粗砂層の互層であり、護岸用と考えられる杭が打ち込まれている。平安時代前期から後期の皿、高杯、甕などが出土した。

路面と考えられる面は溝SD11の肩部より約0.4mほど低いが、径1~5cm前後の礫が密に敷き詰められている。その上に粗砂や泥土が薄く何層にも渡って堆積している。これは洪水時などに三条大路が流路になり、SX8はその時の補修痕と考えることができる。

調査区中央から北端にかけては、近・現代の攪乱などによって、平安時代の遺構は検出されていなかったが、北端付近で柱穴の一部を検出したため、北側へ調査区を拡張した。その結果、柱穴2基を検出した。P12・15間は2.1mを測り、一辺約0.8m、深さ0.5mの隅丸方形を呈する。調査区外北西に建物跡を想定できる。

北東隅で検出したSX20は、ごく一部分しか確認できなかったため、全体を知ることはできなかったが、南北方向の溝の可能性が考えられる。平安時代前期の土師器杯などが出土した。

中世 調査区南半で検出した幅0.3m、深さ0.05mの東西方向の溝SD6、1条だけである。埋土より室町時代の土師器皿や青磁片が少量出土した。

近・現代 調査区北東隅の攪乱の下層遺構の性格を明らかにするため、一部拡張を行った結果、だるま窯の一部を検出した（図30）。調査区北半部で瓦が多量に出土した攪乱は、この窯に関連することが判明した。攪乱4は幅1m程度、深さ0.5mの東西方向の下水道溝である。

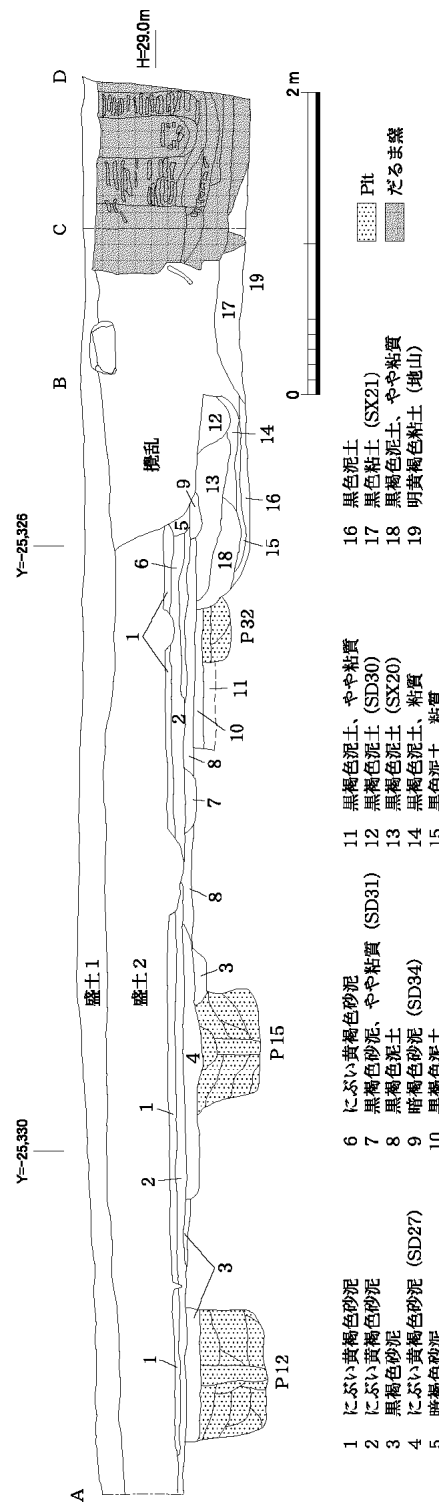
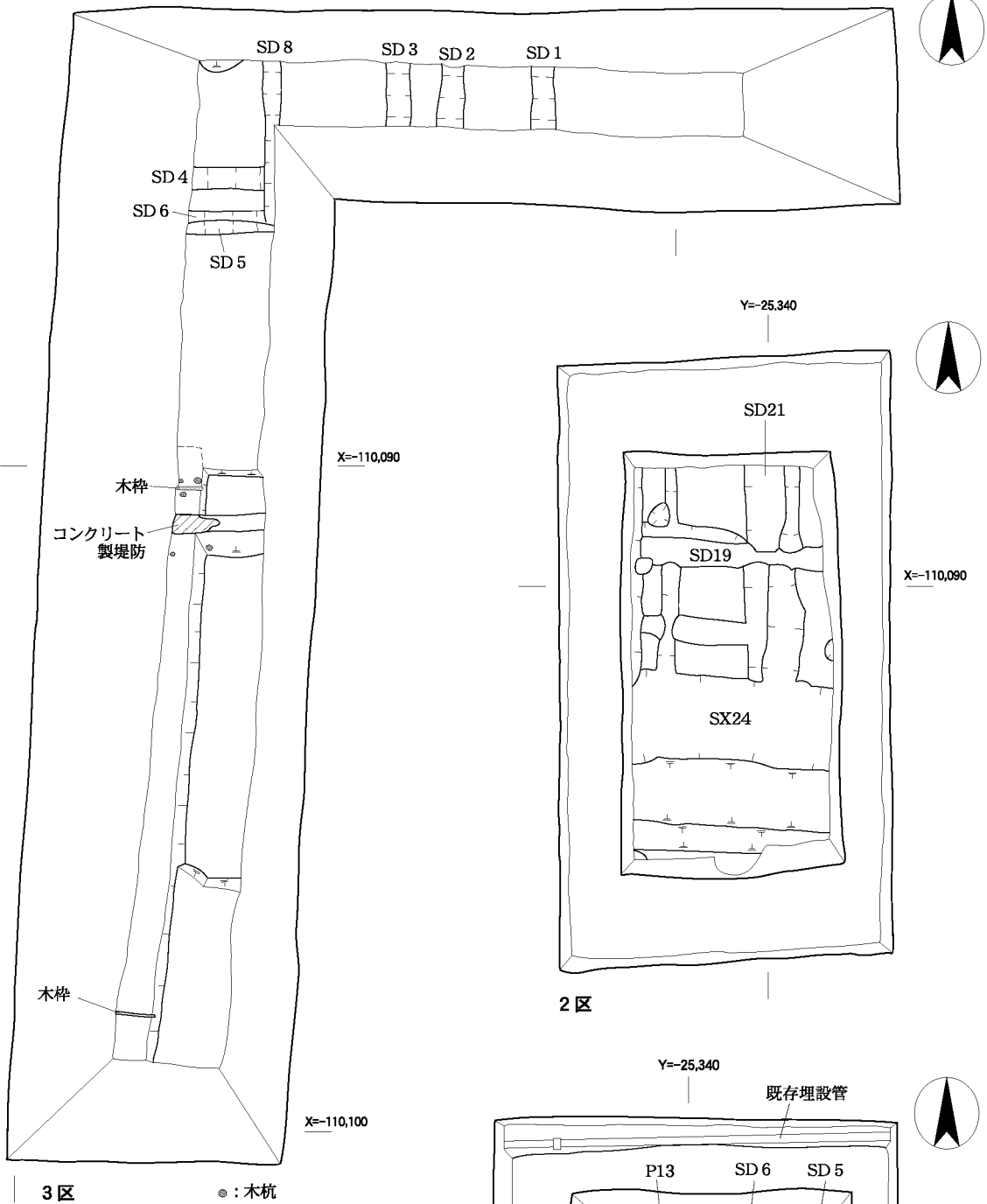


図24 1区北壁断面図(1:50)

Y=-25,340

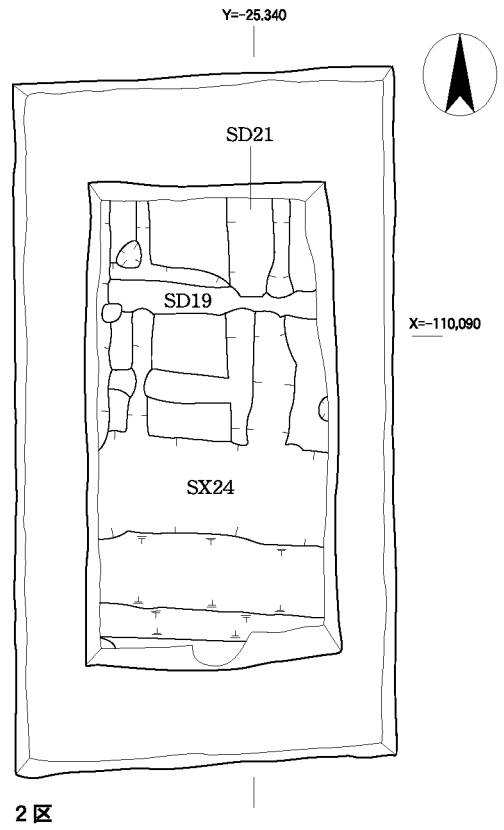
Y=-25,330



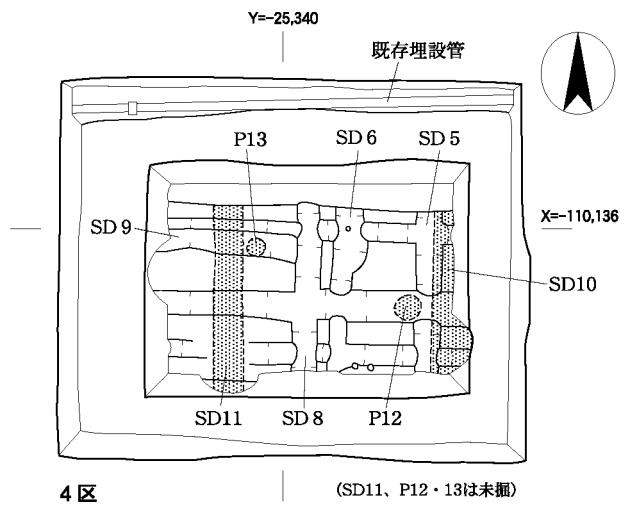
3区

●: 木杭

0 5m



2区



4区

(SD11、P12・13は未掘)

図25 2～4区遺構平面図(1:100)

2～4区(図25・26、図版10)

調査対象地は山ノ内浄水場建設時の盛土が2m以上ある。2・4区は十四町の宅地内部分に、3区を無差小路と姉小路部分に試掘トレンチを設定した。

2区 基本層序は盛土・現代整地層・耕作土層以下、室町時代の遺構面となる暗灰黄色砂泥層、鎌倉時代の遺構面となる黒褐色砂泥層、黄褐色粘質土層(地山)となる。地山の標高は30.7mである。検出した遺構は、幅0.2～0.65mの南北および東西方向の溝状遺構と、東西方向の幅1.0～1.2m前後の浅いレンズ状の落込SX24がある。

3区 長軸14.5m、幅4m(南北)と短軸12.5m、幅3m(東西)のL字形の調査区である。基本層序は2区とほとんど同様である。黒褐色砂泥層上面で幅0.4～0.7m、深さ0.2～0.3mの南北および東西方向の中世の溝5条(SD1～4・8)を検出した。以下、黒褐色砂泥層の平安時代遺物包含層となる。なお、南北トレンチX=-110,180m以南は、改修前の西高瀬川である。

4区 2・3区の間際に設けた調査区である。基本層序は同様である。黒褐色砂泥層上面で、幅0.2～0.4mの南北および東西方向の中世の溝7条を検出した。これらの溝に切られた状態で、平安時代の遺構と考えられる南北方向の溝2条(SD10・11)とピット2基(P12・13)を確認した試掘調査のため未掘削であるので、詳細は不明である。

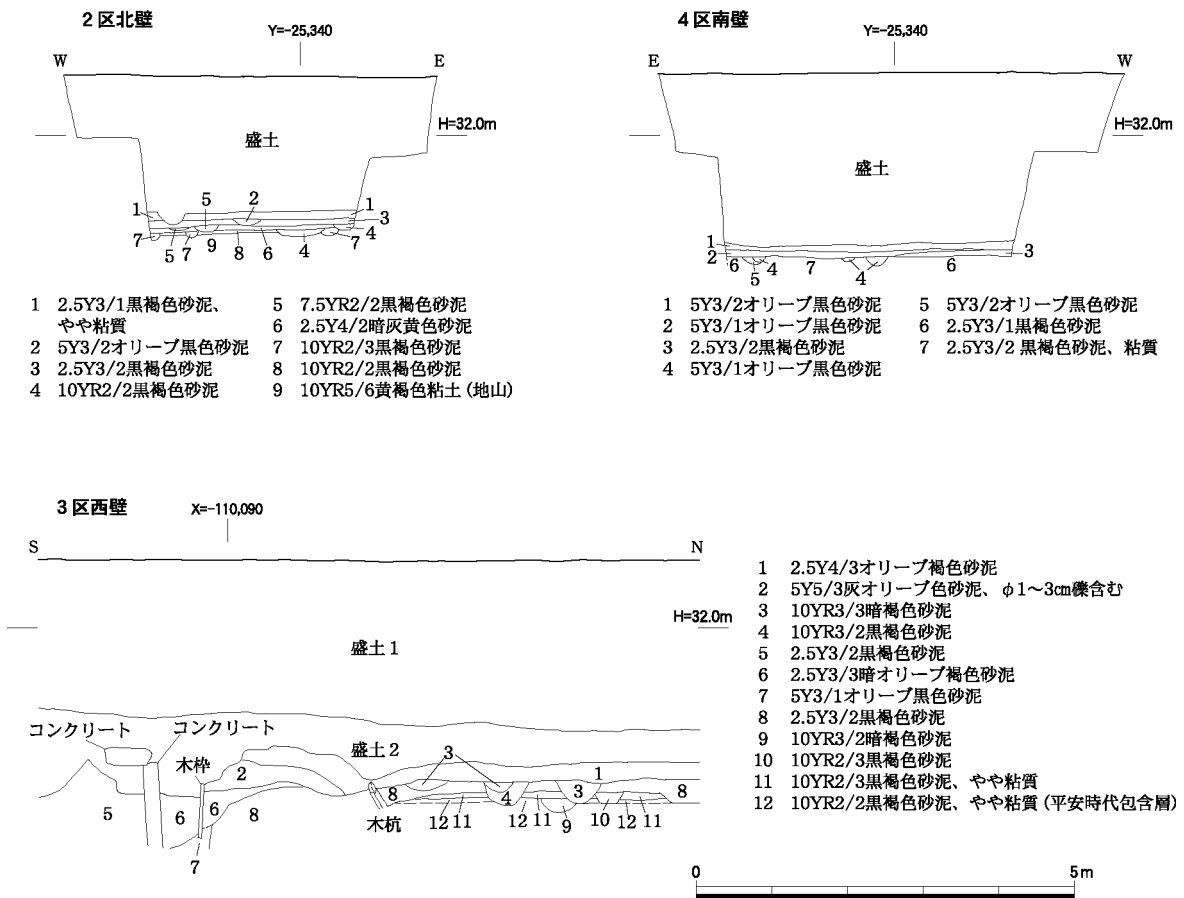


図26 2～4区遺構断面図(1:100)

(3) 遺物

遺物は、発掘調査(1区)・試掘調査(2~4区)を合わせて整理箱に11箱出土した。内、瓦・木片が各々1箱である。

1区(図27~29)

古墳時代から江戸時代の遺物が出土した。全体に出土量が少なく、また土器も小片であった。主な出土はSD7・11、SX20・21からである。

古墳時代 SX21から古墳時代の土師器壺・甕・高杯などが出土した。しかし土器の遺存状態が悪く、復元できるものは少ない。

1片であるが、須恵器高杯の杯部が路面上面の堆積土層から出土した。

平安時代 SD11からは平安時代前期の高杯脚部が出土した。その他、平安時代の土師器皿・杯・甕、須恵器甕などが出土している。また、この溝の両側から残存する杭を8本採り上げた。

SD7からは平安時代末期の土師器皿が出土した。その他は破片が小さく、時期の限定できるものはない。

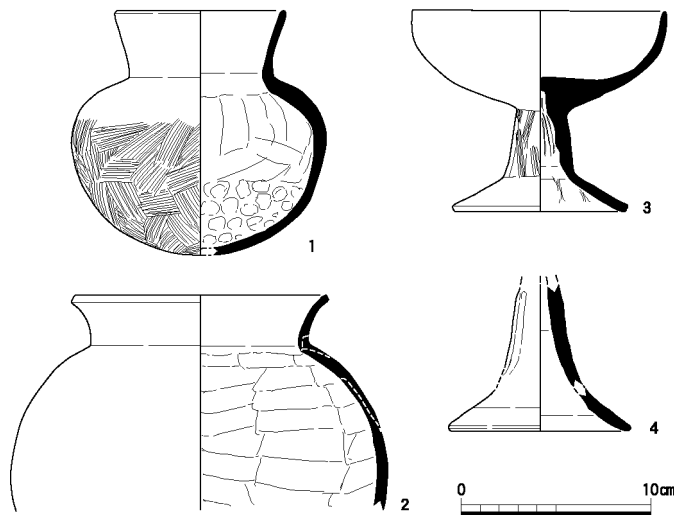


図27 1区出土古墳時代土師器実測図(1:4)

SX20からは平安時代前期の土師器皿・杯・椀・甕、須恵器杯・甕、布目痕のある瓦が出土した。

P33からは平安時代前期の土師器皿が出土したが、他の柱穴からは土師器の小破片が少量出土するのみであった。

SX8からは平安時代の土師器皿・甕、須恵器甕、緑釉陶器小片が1片出土した。

室町時代 SD6からは室町時代の

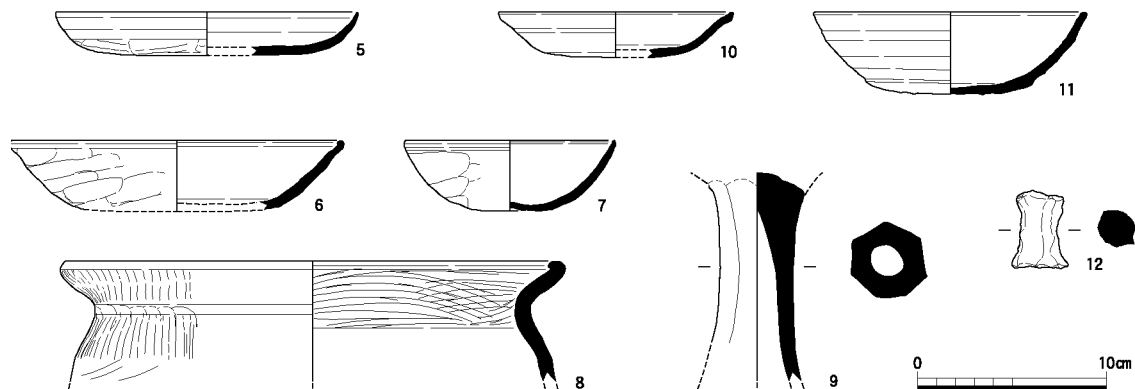


図28 1区出土平安時代以降遺物実測図(1:4)

表6 8次調査遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
古墳時代	土師器・須恵器		土師器4点		
平安時代	土師器・須恵器・瓦・木製品・柱痕・杭		土師器7点		
中世	土師器・須恵器・輸入陶磁器				
近世以降	土師器・染付・棧瓦・土製品・トチン		トチン1点		
計		12箱	12点(1箱)	5箱	6箱

コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

土師器皿、輸入陶磁器の青磁片が出土した。

2～4区

2区 少量であるが、平安時代末期から江戸時代の遺物が出土した。

SD17からは平安時代末期から鎌倉時代前半の土師器皿が出土した。SD21からは鎌倉時代、SD14からは室町時代の土師器皿が出土した。遺構面精査中に江戸時代の泥面子、染付、施陶陶器、焼締陶器などが出土した。

3区 少量であるが、平安時代後期から室町時代の遺物が出土した。

SD3からは平安時代末期から鎌倉時代の土師器皿、須恵器片、輸入陶磁器が出土した。SD6からは鎌倉時代の土師器皿、須恵器が、SD8からは鎌倉時代から室町時代の土師器皿、瓦器が出土した。

4区 遺構面精査中に平安時代末期から鎌倉時代の土師器皿、須恵器が江戸時代の遺物と混入して出土した。SD5から鎌倉時代、SD2・8からは室町時代の土師器が出土した。



図29 1区SX21出土古墳時代土師器

(4) まとめ

当該地は平安京右京三条四坊十三・十四町に位置する。四坊の地は多くが官衙の厨家ないし、領地に充てられていた。『拾芥抄』西京図によれば、十三町が織部司の厨家である織部町、十四町は左衛門府の厨家である左衛門町で占められている。

今回の発掘調査は小範囲であったが、平安時代前期の三条大路北側溝および路面、建物跡などを検出することができた。

また全形を知りえることはできなかったが、古墳時代の遺構を確認した意義は大きい。前回の三条通以南の発掘調査でも水溜遺構や遺物包含層を検出しており、集落跡などの存在をうかがわせる。今後発掘調査が予測される北側の調査地は、大いに期待がもてる。

試掘調査地は盛土が厚く堆積し、小面積の調査しかできなかったが、遺構の遺存状態などは概ね御池通北側の調査成果と変りがなく、中世から近世、近・現代までの耕作が永く営まれていたことが確認できた。2区では平安時代の遺構は検出できなかったが、中世の遺構面を2面確認した。3・4区では、中世の遺構、平安時代の遺構・遺物包含層を確認した。京都市埋蔵文化財調査センターの指導により、現時点での記録をとり、ブルーシートで覆いをして埋め戻した。



図30 1区だるま窯検出状況(西から)

付表1-1 7次調査出土土器類観察表1

No.	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
1	弥生土器 甕	口径 16.2 高さ 5.7	色調：外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面7.5YR6/3にぶい褐色 胎土：チャート・長石含む、石炭・雲母少量、赤色粒子少量混	口縁部は外反し、端部外面に面をもつ。口縁部は内・外面共にナデ。体部は内面が横方向の粗いハケメ、外面が縦方向の粗いハケメ。	2区 包含層	弥生後期
2	弥生土器 甕	口径 17.6 (推定) 残高 5.9	色調：7.5YR7/4にぶい橙色 ～7.5YR4/2灰褐色 胎土：石英・チャート・長石 多量に含む、赤色粒子少量混	口縁部欠損。体部内面にわずかに横方向の粗いハケメが残る。内・外面共に磨滅が著しく詳細不明。	2区 包含層	弥生後期
3	土師器 甕	口径 19.0 残高 9.0	色調：10YR7/3にぶい黄橙色 胎土：石英・白色砂粒含む	口縁部はやや内弯気味に立ち上がり、端部は平坦な面をもつ。口縁部は内・外面共にナデ。体部は内面が板状工具による横・斜め方向のナデ、外面は横・斜め方向のハケメ。口縁部外面煤付着。	2区 包含層	古墳前期
4	土師器 甕	口径 17.2 残高 6.6	色調：外面10YR6/2灰黄褐色 内面10YR6/3にぶい黄褐色 胎土：石英・白色砂粒少量含む、 粒子密 焼成：良	口縁部外面に面をもつ。内面は口縁部はナデ、頸部は横方向の粗いハケメ、体部は板状工具によるナデ。外面は口縁部がナデ、頸部以下は縦方向のハケメ。	2区 包含層	古墳前期
5	土師器 皿	口径 17.2 残高 2.0	色調：7.5YR7/6褐色～7.5YR2/4にぶい橙色 胎土：チャート・石英・雲母 少量含む、赤色粒子混	口縁部は小さくつまみあげる。内面から口縁部外面はナデ。底部外面はヘラケズリ。	2区 Pt58	平安前期
6	黒色土器B 甕	口径 16.0 残高 6.1	色調：体部外面7.5YR5/3にぶい褐色 胎土：白色砂粒含む、雲母少量	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸くおさめる。内・外面共に横方向のヘラミガキ。	2区 Pt58	平安前期
7	須恵器 蓋	口径 18.4 残高 1.6	色調：灰色 胎土：粒子細かい 焼成：良	天井部欠損。口縁部は緩やかに屈曲し、端部は外下方へ突出する。内・外面共に横ナデ。口縁部外面に自然釉、重ね焼痕あり。	2区 SD16	平安前期
8	須恵器 壺	口径 3.6 高さ 9.6 体部 6.7 底部 3.5	色調：青灰色～灰色 胎土：1～4mmの小石少量含む	完形品。内面は口縁から頸部は横ナデ、頸部にしぼり痕が認められる。外面は口縁から体部肩部まで横ナデ、体部下段には右回りのロクロ水引き痕。底部外面は未調整の糸切り。	2区 SX52	平安前期
9	須恵器 杯	高さ 1.7 底部 7.4	色調：灰色 胎土：砂粒わずかに含む、粒子細かい 焼成：良	底部の一部。内・外面共に横ナデ。貼り付け高台。底部外面に墨書、判読できず。	2区 SD16	平安
10	弥生土器 甕	口径 18.6 高さ 4.2	色調：10YR6/2灰黄褐色 胎土：チャート・石英少量含む、 粒子密 焼成：良	口縁から頸部のみ。口縁部は内・外面共にナデ、竹管文を施す。頸部は内面は斜め方向のハケメ、外面は縦方向のハケメで上端に竹管文。	3区 包含層	弥生中期 後半
11	弥生土器 高杯	口径 12.0 高さ 1.7	色調：外面7.5YR7/1明褐灰色 内面7.5YR7/4にぶい褐色 胎土：石英・チャート多く含む	口縁部欠損。残存する部位はナデ。口縁部外面に櫛刺突文あり。	3区 包含層	弥生
12	弥生土器 高杯	残高 2.3	色調：外面10YR6/2灰黄褐色 内面7.5YR7/3にぶい褐色 胎土：赤色粒混、粒子細かい	杯部底部から体部のみ。内・外面共にヘラミガキ。	3区 包含層	弥生
13	弥生土器 壺	口径 9.2 高さ 7.3	色調：10YR7/3にぶい黄褐色 断面7.5Y4/1灰色 胎土：石英・小石を少量含む 粒子密 焼成：良	口頸部のみ。内・外面共に縦方向のヘラミガキ。外面と内面口縁部に朱塗りが施されている。	3区 包含層	弥生後期
14	弥生土器 壺	残高 6.2	色調：10YR7/2にぶい黄褐色 胎土：石英・チャート含む、 赤色粒少量混	頸部の一部のみ。内面は頸部は板状工具による横方向のナデ、下段はナデ、体部に向かう部分はヘラケズリ。外面はナデ。	3区 包含層	弥生
15	土師器 椀	口径 13.2 高さ 4.5	色調：外面10YR6/2～5/2灰黄褐色、 内面7.5YR6/4にぶい褐色、 底部7.5Y6/1黄灰色 胎土：石英を多く含む、銀雲母ごく少量混、粒子粗い	口縁部は丸くおさめ、体部は内弯し、丸底である。内面は横方向の丁寧なナデ。外面は口縁部はナデ、体部は横方向のケズリ、底部は縦方向のケズリ、内面に比べて仕上げは粗い。	3区 SX47	古墳前期

付表1-2 7次調査出土土器類観察表2

No.	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
16	土師器 高杯	口径 19.2 高さ 14.3	色調：杯部10YR8/2灰白色、 脚・裾部10YR7/3にぶい黄橙 色 胎土：石英多く含む、長石・ 赤色粒含む	杯部は屈曲し外上方にのびる。口縁部は 外反し丸くおさめる。脚部の内面は上端 にしぼり痕が残る横方向のケズリ。外面 は縦方向のヘラミガキ。杯部・裾部は内 ・外面共に剥離が著しく調整不明。	3区 SX47	古墳前期
17	土師器 甕	口径 16.0 最大径 24.6 高さ 22.7	色調：外面7.5YR7/4にぶい 橙色、内面7.5YR7/3にぶい 橙色	外面体部最大径以下煤厚く付着する。底 部欠損。内面は口頸部は横方向のナデ、 体部はヘラケズリ、残存する底部には指 圧痕が残る。外面は口頸部は横方向のナ デ、体部は上段が縦方向の、中段が横方 向のハケメ。	3区 SX47	古墳前期
18	土師器 椀	口径 13.2 高さ 3.8	色調：10YR7/2にぶい黄橙色 胎土：金雲母を多く含む、粒 子細かい 焼成：良	内面は底部中心から口縁部まで右回り でいっきに横ナデし、端部でナデ上げた痕 が残る。外面は底部が一定方向のケズリ、 他の部位は横方向のケズリ。	3区 SX46	平安前期
19	土師器 椀	口径 18.0 高さ 4.3	色調：5YR5/4にぶい赤褐～ 5YR6/4にぶい橙色 胎土：白色砂粒含む 焼成：良	ほぼ完形。内面はナデ。外面は横方向の ヘラケズリ、口縁部はナデ後ヘラケズリ。	3区 SX46	平安前期
20	土師器 甕	口径 17.4 残高 4.0	色調：7.5YR7/3にぶい橙色 胎土：粒子細かい 焼成：良	口縁部は外反し、端部は外面する。口縁 部はナデ。体部は内・外面共に未調整。 外面煤付着。	3区 SX46	平安
21	土師器 甕	口径 26.4 残高 9.0	色調：10YR7/3にぶい黄橙色 胎土：石英・金雲母含む、粒 子細かい	内面は口縁部が横方向の粗いハケメ、体 部が板状工具による横方向のナデ。外面 は口縁部がナデ、体部は粗いハケメ。	3区 SD44	平安
22	須恵器 杯B	口径 15.6 高さ 5.4 底部 11.8	色調：灰色 胎土：1～5mmの石英やや多 く含む、粒子細かい 焼成：良	完形。底部内面は縦方向のナデ。他の部 位は横方向のナデ。貼り付け高台。	3区 SX46	平安前期
23	須恵器 壺	口径 9.8 残高 10.5	色調：灰色 胎土：砂粒少量含む、粒子密	口縁部から体部の一部のみ。残存する外 面に自然釉により施釉。	3区 SX46	平安前期
24	須恵器 鉢	口径 27.4 残高 8.2	色調：灰白色 口縁部外面黒色 胎土：粒子細かい 焼成：あまい軟質	底部欠損。体部は直線的に開き、口縁端 部は肥厚し外面する面をもつ。内・外面 共に横ナデ。	3区 SD44	平安前期
25	緑釉陶器 椀	残高 1.8 底部 9.4	胎土：粒子密	底部の一部。やや軟質の須恵質の素地に 浅緑色の釉薬を施す。貼り付け高台。	3区 SD44	平安前期
26	土師器 皿A	推定口径 14.8 残高 1.9	色調：内面2.5Y6/2灰黄色 胎土：密 焼成：良	体部は緩やかに外方へ開き、端部は軽く 上方へつまみあげる。内面はナデ。外面 は口縁から体部はナデ、底部はオサエ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
27	土師器 皿A	口径 15.6 高さ 1.7 (復元)	色調：10YR6/4にぶい黄橙色 胎土：やや密	底面は平坦、体部外反。ロクロ成型。ナ デ調整。内・外面に朱塗りが施されてい るが、磨滅が著しく詳細不明。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
28	土師器 皿A	口径 15.6 高さ 1.5	色調：7.5YR8/3浅黄橙色 胎土：やや密	底部は平坦、体部は外反し、端部は内方 へ肥厚する。内・外面共に磨滅が著しく 調整不明。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
29	土師器 椀	口径 13.6 高さ 3.2	色調：2.5YR6/6橙色 胎土：やや密	体部は丸みをもって立ち上がり、口縁端 部は丸くおさめる。底部と体部の境が不 明瞭。内面はナデ。外面は底部がオサエ、 他の部位はナデ、口縁端部は強いナデ。	5区 SD58	平安前期
30	土師器 椀	推定口径 14.0 残高 2.7	色調：10YR7/3にぶい黄褐色 胎土：やや密、7.5YR6/4に ぶい橙色	底部欠損。体部はやや内弯しながら立ち 上がり、口縁端部は上方へつまみあげる。 内・外面共に器表面の剥離が著しく調整 不明。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
31	土師器 椀	口径 15.0 高さ 4.0	色調：10YR8/2灰白色 胎土：密	体部は丸みをもって立ち上がり、底部と の境は不明瞭。口縁部はつまみあげる。 内面から口縁部外面は横ナデ。外面は体 部から底部は指オサエ。体部の一部に粗 いケズリ痕が残る。	5区 SD58 (SX39)	平安前期

付表1-3 7次調査出土土器類観察表3

No	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
32	土師器 椀	口径 13.8 高さ 3.2	色調：5YR6/6橙色 胎土：密	口縁端部の内面に沈線、体部は緩やかに外反。内面はナデ。外面は口縁部は横ナデ、その他の部位は指オサエ。口縁端部、内・外面に煤付着。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
33	土師器 椀	口径 14.8 高さ 3.4	色調：7.5YR7/6橙色 胎土：密	口縁端部は内方に肥厚し、体部は外反、器壁は薄い。底部は平坦。口縁部内・外面横ナデ。他は指オサエ。器表面は磨滅が著しく詳細不明。内面・口縁端部に煤付着。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
34	土師器 椀	推定口径 15.0 残高 3.7	色調：10YR8/4浅黄橙色 胎土：やや密	底部欠損。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁端部は内側にやや肥厚する。全体ナデ調整。口縁端部外面はやや強いナデ。	5区 SD58	平安前期
35	土師器 椀	口径 11.8 高さ 3.1	色調：内面7.5Y6/6橙色、 外面7.5YR6/4にぶい橙色 胎土：密	体部は丸みをもって立ち上がり、口縁端部をつまみ上げる。内面から体部外面を丁寧なナデ調整。	5区 SD58	平安前期
36	土師器 椀	口径 13.8 高さ 3.2	色調：10YR8/2灰白色 胎土：密	口縁端部は内方へ肥厚し、やや上方へかきあげ、緩やかに外反する。内面は横ナデ。外面は口縁部が横ナデ、体部が指オサエ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
37	土師器 椀	口径 14.8 高さ 2.9	色調：10YR7/3にぶい黄褐色 胎土：密	底部は平坦で、体部は緩やかに外反し、口縁端部は上方につまみあげる。口縁部は内・外面共にナデ。外面は底部から体部にかけて指オサエ後ナデ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
38	土師器 杯B	口径 18.4 高さ 4.3	色調：10YR6/4にぶい黄橙色 胎土：雲母細粒含む	平坦な底部に断面台形の高台が付く。体部は外上方へ大きく広がり、口縁端部はやや肥厚する。内面と底部外面はナデ。体部外面は粗いケズリ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
39	土師器 杯B	口径 27.2 高さ 7.1	色調：5YR7/8橙色 胎土：密、雲母少量含む	平坦な底部に断面台形の高台を貼り付ける。体部は外上方へ大きく広がり、口縁部はやや外反する。内面はナデ、外面は粗いヘラケズリのため、タタキ痕が残る。底部外面は一定方向のナデ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
40	土師器 蓋	推定口径 18.0 高さ 2.2	色調：10YR8/2灰白色 胎土：密	頂部欠損。内面端部は内側に肥厚する。端部は丸くおさめる。外面に粗いヘラケズリ痕がわずかに残るが、残存状態が悪く詳細不明。	5区 SD58	平安前期
41	土師器 蓋	口径 19.6 残高 2.2	色調：10YR7/4にぶい黄橙色 胎土：密	頂部欠損。口縁端部は内方にやや肥厚、天井部は平坦、外下方に広がる。内面はナデ。外面はヘラケズリ後粗いヘラミガキ。	5区 SD58	平安前期
42	土師器 高杯	口径 26.9	色調：10YR7/3にぶい黄橙色 胎土：密	体部は緩やかに外反し大きく広がる。口縁端部は垂直な面をもち上端がわずかに突出。内面はナデ。外面は上方向のヘラケズリ後粗いヘラミガキ。内面はナデ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
43	土師器 高杯	口径 19.8 残高 2.3	色調：5YR6/6橙色	体部は緩やかに外上方へ広がり、口縁部は外反。口縁部外面はナデ。内面は剥離し調整不明。	5区 SD58	平安前期
44	土師器 甕	口径 12.0 残高 6.5	色調：7.5YR7/4にぶい橙色 胎土：密	頸部は丸く外傾し、口縁端部内側に肥厚する。体部上部でやや内傾。器表面は磨滅しているがハケメ痕がわずかに認められる。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
45	土師器 甕	口径 13.6 残高 5.5	色調：10YR8/3浅黄色 胎土：密	体部上部でやや内傾、頸部で丸みをもって外傾する、短い口縁部が付く。端部は丸みをもち内側に折れ曲がる。口頸部は内・外面共にナデ、体部外面はタタキ、内面に指オサエ痕が残る。外面に煤付着。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
46	土師器 甕	口径 17.0 残高 5.5	色調：10YR6/3にぶい黄橙色 胎土：雲母含む	口縁部は大きく外傾し内方に肥厚する。頸部は大きく折れ曲がり、体部はやや内傾する。内面から口頸部外面はナデ。外面は頸部に指オサエ痕がある、体部肩部以下はタタキ。外面に煤付着。	5区 SD58 (SX39)	平安前期

付表1-4 7次調査出土土器類観察表4

No	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
47	土師器 甕	口径 17.6 残高 9.0	色調：内面10YR6/2灰黄褐色 外面7.5YR7/4にぶい橙色	口縁部は大きく外傾し、端部は内側に肥厚する。体部はわずかに内傾する。口縁部は内・外面共にナデ、外面は体部にタタキ痕が残るが器表面の磨滅が著しく詳細不明。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
48	土師器 甕	口径 21.2 残高 6.0	色調：10YR8/2灰白色 胎土：密	口縁部は外方へ大きく折れ曲がり、端部は内側に肥厚する。口縁部は内・外面共にナデ。外面は体部はタタキ後ナデ、頸部は指オサエ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
49	土師器 甕	口径 17.6 残高 7.6	色調：10YR7/6明黄褐色 胎土：1mm大の粒子有り	口縁部は面をもち内側にやや肥厚。体部外面に粗いハケメ痕がわずかに認められるが、器表面の磨滅が著しく詳細不明。外面に煤付着。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
50	土師器 甕	口径 20.0 残高 13.0	色調：10YR7/2にぶい黄橙色	口縁部は外傾し、端部は面をもち内側に肥厚する。体部は上部はやや内傾、丸みをもつ。口縁部は内・外面共にナデ。体部は内面にハケメ痕が、下段にタタキ痕が残る、外面は斜め方向の粗いハケメ、下段にミガキが施される。外面に煤付着。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
51	土師器 甕	口径 23.0 残高 6.0	色調：外面10YR7/3にぶい黄 橙色 胎土：雲母含む 粗い	口縁部は頸部で外方へ屈曲し、端部は面をもち内側に肥厚する。体部上段でやや内傾する。口縁部は内・外面共にナデ。体部は内面はハケメ、外面は粗いハケメ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
52	土師器 甕	口径 29.2 残高 8.0	色調：10YR7/3にぶい黄橙色 胎土：硬い、粒子ない	口縁部は外反し、端部は面をもち内側に肥厚する。口縁部は内・外面共にナデ、頸部内面はケズリ後ハケメ。体部外面は粗いハケメで、内面は細かいハケメ。内面に煤付着。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
53	土師器 壺E	口径 7.4 残高 3.5	色調：7.5YR7/4にぶい橙色 +2.5YR6/5明赤褐色 胎土：やや密	体部はやや外傾し、内側に突出する小さい口縁が付く。端部は丸くおさめる。器表面の残存状態が悪く調整不明。	5区 包含層	平安前期
54	土師器 壺E	口径 6.2 残高 4.5	色調：5YR7/6橙色 胎土：密	底部欠損。体部は丸みをもって外傾し、内側に突出する口縁をもち端部は丸くおさめる。外面は器表面の剥離が著しく詳細不明。一部にヘラミガキ痕確認。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
55	土師器 壺E	口径 8.0 残高 3.0	色調：5YR5/6明赤褐色 胎土：やや密	口縁部欠損。体部は外傾し、肩部は内側に突出する。器壁薄い。内面はナデ。外面はヘラケズリ後ミガキ。	5区 SD58	平安前期
56	黒色土器 椀	口径 20.0 高さ 5.3	色調：内面黒色、外面10YR 8/2にぶい黄橙色	口縁部内方に沈線。体部は外反する。内面は全面ミガキ。外面は底部から体部にかけてケズリ、口縁部は横ナデ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
57	黒色土器 甕	口径 14.0 残高 6.5	色調：内面10Y2/2黒色、 外面2.5Y3/2黒褐色 胎土：雲母含む	体部上部でやや内傾し、頸部は「く」字状に折れ曲がる短い口縁が付く。端部は平坦な面をもつ。口縁部は内・外面共にナデ。体部は内面にハケメ痕が残る、外面はケズリ後ナデ。	5区 SD58	平安前期
58	土馬	残長 7.6	色調：10YR8/2灰白色	頸部・胴部のみ。粘土塊より首をつまみ出し二つ折りにする。胴部上方にオサエ後ナデ痕が認められるが詳細不明。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
59	土馬	残長 6.1	色調：2.5Y8/3淡黄色	胴部のみ。首をつまみ出し二つ折りにする。詳細不明。	5区 SD58	平安前期
60	土馬	残長 4.8	色調：10YR8/2灰白色	胴部後半部と尾。尾をつまみ出し二つ折りにする。詳細不明。	5区 SD58	平安前期
61	土馬	最大径 2.2 高さ 4.0	色調：10YR8/2灰白色 胎土：硬	脚部のみ。詳細不明。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
62	土馬	最大径 1.6 高さ 3.3	色調：2.5Y8/3淡黄色	脚部のみ。ケズリ痕あり。	5区 SD58 (SX39)	平安前期

付表1-5 7次調査出土土器類観察表5

No	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
63	土師器 甕	口径 23.8 残高 7.5	色調：10YR7/3にぶい黄橙色 胎土：石英・白色砂粒含む、 赤色粒少量混	口縁部は外反し、端部は内側に肥厚する。 口縁部は内面が横方向の、外面が縦方向 の粗いハケメ（7～8本/2cm）、端部は ナデ。体部は磨滅が著しく調整不明。	4区 SD7	平安前期
64	須恵器 蓋	高さ 1.4 口部 16.0	色調：青灰色 胎土：粒子密 焼成：良	口縁から天井部の一部のみ。口縁部は内 ・外面共に横ナデ。天井部は内面一定方 向のナデ、外面ヘラケズリ。	4区 Pit9 上層	平安前期
65	須恵器 杯B	口径 14.8 残高 3.6	色調：外面暗灰色、内面灰色 胎土：砂粒ごく少量、粒子細 かい 焼成：良	口縁部一部のみ。口縁端部は丸くおさめ る。内外面横ナデ。	4区 Pit9 下層	平安前期
66	須恵器 壺	残高 7.7 底径 7.4	色調：灰色 胎土：粒子細かい 焼成：良	底部と体部の一部のみ。断面方形の貼り 付け高台。残存する部位は横ナデ。	4区 Pit9 下層	平安前期
67	須恵器 壺	残高 4.5 底径 10.6	色調：淡青灰色 胎土：粒子密 焼成：良	断面方形の貼り付け高台。外面は体部・ 底部共に横ナデ。	4区 攪乱に 混入	平安前期
68	須恵器 壺(瓶子)	口径 4.4 高さ 11.3 底径 4.2	色調：灰～灰白色 胎土：砂粒少量混 焼成：やや甘い	完形。外面全体横ナデ。底部外面は未調 整の糸切り。	4区 Pit8	平安前期
69	灰釉陶器 椀	口径 14.2 残高 4.6	色調：内面淡緑灰色 胎土：粒子細かい	外面の釉葉は焼成時に剥離、ハケ塗りか。 後世の付着物が全体を覆っているため詳 細不明。	4区 包含層	平安前期
70	土馬	残長 8.8	色調：10YR8/3浅黄橙色 胎土：粒子密	粘土塊より首・尾をつまみ出し二つ折り にする。	4区 包含層	平安前期
71	須恵器 皿	口径 15.6 高さ 2.0	色調：2.5YR7/3浅黄色 胎土：軟質	平底、口縁部は短く外上方へ開き、端部 は丸くおさめる。内・外面共に残存状態 が悪く調整不明。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
72	須恵器 杯	口径 16.2 残高 5.0	色調：N5/0灰色 胎土：密 硬い	底部欠損。体部は外反し、口縁端部は丸 くおさめる。器壁は厚い。残存する部位 はナデ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
73	須恵器 杯	口径 17.6 残高 6.5	色調：内面N7/1灰白色 外面5Y6/1灰色（一部自然釉）	口縁部内・外面強いナデ。体部は内・外 面共にナデ。外面の一部に自然釉がかか る。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
74	須恵器 杯A	口径 12.8 高さ 2.9	色調：N6/0灰色 胎土：密	平底で体部は外反し、口縁端部は丸くお さめる。底部外面ヘラオコシ。他の部位 はナデ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
75	須恵器 杯A	口径 12.8 高さ 3.4	色調：2.5Y6/1黄灰色 胎土：密	平底で体部は外反し、口縁端部は丸くお さめる。体部外面下端はケズリ後ナデ。 底部外面はヘラオコシ。他の部位は内・ 外面共にナデ。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
76	須恵器 杯B	口径 12.0 高さ 4.9	色調：N5/0 灰色 胎土：密	平坦な底部に断面方形の高台が付く。体 部は外反し、口縁端部は丸くおさめる。 全面ナデ調整。底部外面はヘラオコシ後 ナデ。高台は削り出し。体部内面に炭と 漆が付着。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
77	須恵器 杯B	口径 15.8 高さ 5.7 (復元)	色調：5B6/1青灰色 胎土：密	体部はやや丸みをもち外反し、口縁端部 は丸くおさめる。断面方形の削り出し高 台が付く。ナデ調整。	5区 包含層	平安前期
78	須恵器 杯B	口径 15.0 高さ 5.5	色調：5B6/1青灰色 胎土：密	平坦な底部に断面方形の高台が付く。体 部は外方に直線的に開く。口縁端部は丸 くおさめる。底部外面はヘラオコシ後ナ デ。	5区 SK24	平安前期
79	須恵器 蓋	口径 13.6 高さ 3.0	色調：2.5Y8/1灰白色、 口縁付近5Y5/1灰色 胎土：やや密	天井部は平坦、口縁部は屈曲する。天井 部外面はヘラオコシ。他の部位はナデ。 ツマミは貼り付け。	5区 SD58	平安前期
80	須恵器 把手付壺	推定口径 3.2 残高 6.0	色調：10YR8/1灰白色、 釉7.5YR6/3オリーブ黄色 胎土：密	体部は丸みをもち上段に把手が付く。把 手は1つないし2つ。頸部内面ナデ。頸 部から体部上段と把手に自然釉と見られ る灰釉が付着。把手は面をもち貼り付け。	5区 SD58 (SX39)	平安前期

付表1-6 7次調査出土土器類観察表6

No.	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
81	須恵器壺(瓶子)	最大径 7.0 底径 4.4 残高 7.0	色調: 5PB7/1青灰色 胎土: やや密	口頸部欠損。平坦な底部にやや肩の張る体部が付く。体部はナデ。底部外面は未調整の糸切り。	5区 Ptt53	平安前期
82	須恵器壺(瓶子)	最大径 6.8 底径 4.0 残高 7.5	色調: N6/0灰色 胎土: 密	口縁部欠損。平坦な底部にやや肩の張る体部が付く。体部外面は雑なナデ、内面はロクロ目。底部外面は未調整の糸切り。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
83	須恵器壺(瓶子)	最大径 6.4 高さ 10.0 底径 4.0	色調: N6/0灰色 胎土: 密	平坦な底部に押形の底部。口頸部はわずかに外反し、端部は垂直な面をもつ。頸部内面にしぼり痕が残る。外面はナデ、体部下段の一部はケズリ調整。底部外面は未調整の糸切り。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
84	須恵器壺(瓶子)	頸部径 2.8 底部径 4.6 残高 7.7	色調: N5/0灰色 胎土: 密	平坦な底部と卵型の体部からなる小型壺。残存部外面はナデ。底部外面は未調整の糸切り。	5区 SD58	平安前期
85	須恵器壺(瓶子)	口径 4.4 最大径 6.5 底部径 3.5 高さ 10.5	色調: N6/0灰色 胎土: 密	平坦な底部にやや肩の張る体部、外反する口頸部が付く。端部は垂直な面をもつ。全体に歪みを持ち口縁も大きく折れる。外面と口縁部内面はナデ。内面は頸部は絞り込み、体部はロクロ目が残る。底部外面は未調整の糸切り。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
86	須恵器壺(瓶子)	最大径 8.3 底径 4.3 高さ 12.6	胎土: φ 2mmの粒子あり	平坦な底部と卵型の体部。外面ナデ、所々に自然釉がかかる。頸部内面にしぼり痕が残る。底部外面は未調整の糸切り。内面にロクロ目。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
87	須恵器壺(瓶子)	最大径 8.5 残高 9.3 底径 4.4	色調: 10Y6/1灰色 胎土: 密	平坦な底部と卵形の体部。体部内面にロクロ目が強く残る。外面はナデ。底部外面は未調整の糸切り。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
88	須恵器壺(瓶子)	推定頸部径 3.4	色調: 2.5Y8/2灰白色 胎土: 軟質 焼成: 外面二次焼成受ける	外面は二次焼成を受け詳細不明。内面に漆附着。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
89	須恵器壺(瓶子)	最大径 12.0 残高 12.0	色調: 10Y6/1灰色 胎土: 密	丸みをもった肩部に外反する口頸部が付く。端部は垂直な面をなし上端へ突出する。外面ナデ調整。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
90	須恵器壺(瓶子)	最大径 10.6 残高 11.2 底径 5.8	色調: 7.5Y6/1灰色 胎土: 密	平坦な底部と卵型の体部。内面にロクロ目が残る。ナデ。底部外面は未調整の糸切り。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
91	須恵器平瓶	体部最大径 17.8 残高 10.0	色調: 2.5YR6/1黄灰色 釉2.5Y5/2暗灰黄色 胎土: やや密	天井・底部欠損。注口部の口縁端部は外に肥厚し、天井部は緩やかに盛り上がる。注口部内面はナデ。外面全体に自然釉。	5区 SD58	平安前期
92	緑釉陶器高台のみ	残高 1.1		高台は削り出し、円盤状高台。全面に施釉するが剥離が著しい。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
93	緑釉陶器皿	推定口径 11.6 残高 1.5	色調: 7.5YR7/4にぶい橙色 胎土: 粗 焼成: 軟質	高台は削り出し、円盤状高台。釉薬は内・外面・高台外面に部分的に残存するも剥離が著しく詳細不明。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
94	緑釉陶器皿	口径 13.2 高さ 2.1	色調: 2.5Y8/2灰白色、 釉5Y6/6オリーブ色 胎土: やや密 焼成: 甘い	高台は削り出し、円盤状高台。体部は浅く大きく開く。口縁部は外反し丸くおさめる。外面の体部下段から底部はケズリ。底部内・外面にメアト。洛北産。	5区 SD58 (SX39)	平安前期
95	緑釉陶器	残高 2.3	色調: 釉薬7.5Y7/2灰白色 胎土: 密 硬質	高台は削り出し、円盤状高台。釉薬はほぼ全面に見られる。高台底面に「北」字ふうの刻書あり、施釉前に刻書する。	5区 試掘 包含層	平安前期
96	灰釉陶器皿	口径 16.4 高さ 2.3	色調: 外面7.5YR7/3にぶい黄褐色、内面釉 胎土: 密	底部は断面方形の高台が付く。体部は高く開き、口縁部は内方に折れ曲がり、小さく外反する。端部は丸くおさめる。体部外面はケズリ後ナデ。他の部位はナデ。内面のみ施釉。貼り付け高台。	5区 包含層	平安前期
97	灰釉陶器壺	最大径 16.4 底径 9.3	色調: 内面10YR7/1灰白色、 釉10Y7/2灰白色+10Y6/2オリーブ灰色	断面台形の外へ張り出す高台が付く。高台は削り出し。体部は卵形。体部外面下段はケズリ。外面の肩部から体部にかけて施釉。底部内面にも釉薬がかかる。	5区 SD58 (SX39)	平安前期

付表1-7 7次調査出土土器類観察表7

No.	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
98	土師器 皿	口径 8.6 高さ 1.3	色調：10YR8/2灰白色	平底で、口縁部は外反する。端部は丸くおさめ、やや外傾。残存する内・外面はナデ調整。	7区 SX26	平安前期
99	土師器 皿	口径 15.2 高さ 2.8	色調：10YR8/2灰白色 胎土：硬	平底で、体部は丸みをもって立ち上がり外上方へ大きく開く。内面は丁寧なナデ。外面はヘラケズリ。	7区 SX26	平安前期
100	土師器 皿	口径 15.6 高さ 2.4	色調：7.5YR7/4にぶい橙色	口縁部は丸みをもって立ち上がり、端部は丸くおさめる。内面はナデ。口縁部はケズリ後ナデ、底部は一定方向のナデ。	7区 SX26	平安前期
101	土師器 皿	口径 16.2 高さ 2.4	色調：7.5YR7/6橙色	平底で、口縁部は丸みをもって外上方へ開く。端部は丸くおさめ、やや内に肥厚する。内面はナデ。外面はヘラケズリ。	7区 SX26	平安前期
102	土師器 皿	口径 16.6 高さ 2.2	胎土：やや軟	平底。口縁部は丸みをもって外上方へ立ち上がる。端部は丸くおさめる。内面はナデ。外面は口縁部はケズリ後ナデ、底部はナデ。	7区 SX26	平安前期
103	土師器 皿	口径 19.0 高さ 3.0	色調：10YR7/3にぶい黄褐色	口縁部は丸みをもって立ち上がり外上方へ開く。端部はやや外反し、内側に折曲。内・外面共にナデ。底部の一部にナデ痕が残る。	7区 SX26	平安前期
104	土師器 皿	口径 19.0 高さ 2.5	色調：10YR8/4浅黄色 胎土：良	口縁部は丸みをもって外上方へ立ち上がり、端部は丸くおさめる。内面はナデ。外面は口縁部はケズリ後ナデ。	7区 SX26	平安前期
105	土師器 皿	口径 20.2 高さ 2.5	色調：2.5YR5/6明赤褐色 胎土：軟	口縁部は丸みをもって外上方へ立ち上がり、端部は内側に肥厚する。内面はナデ。外面は器表面の剥離が著しく調整不明。	7区 SX26	平安前期
106	土師器 皿	口径 20.0 高さ 2.5	色調：7.5YR7/4にぶい橙色 胎土：硬・良	平底で、体部は丸みをもって立ち上がり、口縁端部は内側に肥厚する。内面と口縁端部はナデ。外面はケズリ後ミガキ。	7区 SX26	平安前期
107	土師器 椀	口径 11.0 高さ 3.3	色調：5YR6/6橙色 胎土：硬	小さな平底。体部はやや丸みをもって立ち上がり、端部は丸くおさめ、やや内に肥厚する。内面と口縁端部外面はナデ。外面は体部はケズリ、底部は磨減が著しく調整不明。	7区 SX26	平安前期
108	土師器 椀	口径 12.8 高さ 3.4	色調：7.5YR8/4浅黄橙色	小さな平底。体部はやや丸みをもって立ち上がり、端部は丸くおさめる。内面と口縁部外面はナデ。外面にケズリ痕が残るが磨減しており詳細不明。口縁の一部に煤付着。	7区 SX26	平安前期
109	土師器 椀	口径 11.8 高さ 3.4	色調：7.5YR8/3浅黄橙色 胎土：雲母含む	平底から、体部は丸みをもって外反しながら立ち上がる。口縁端部は丸くおさめ、やや内に肥厚する。内面はナデ。外面はヘラケズリ後ナデ。	7区 SX26	平安前期
110	土師器 椀	口径 13.2 高さ 3.5	色調：10YR7/4にぶい黄橙色	小さな平底。体部は丸みをもって立ち上がり、端部は丸くおさめる。内面と口縁端部外面はナデ。外面は口縁部から体部はケズリ、底部は磨減が著しく調整不明。	7区 SX26	平安前期
111	土師器 椀	口径 16.2 高さ 3.4	色調：10YR8/2灰白色 胎土：硬・良	体部はやや丸みをもって立ち上がり、口縁端部はやや肥厚する。内面はナデ。外面は口縁端部はナデ、他の部位は粗いケズリ。	7区 SX26	平安前期
112	土師器 杯B	口径 20.2 高さ 5.0	色調：7.5YR7/6橙色 胎土：硬	断面三角形の小さな高台が付く。体部は丸みをもって外上方へ開く。端部はやや外傾する面をもち、内にわずかに突出。内面はナデ。体部と口縁部外面はやや粗いヘラミガキ、底部外面はナデ。高台は貼り付け。	7区 SX26	平安前期
113	土師器 蓋		色調：10YR7/4にぶい黄橙色 胎土：硬	つまみ上面、中央がやや高まる円形状。残存する内面はナデ、外面はヘラミガキ。つまみは貼り付け。	7区 SX26	平安前期

付表1-8 7次調査出土土器類観察表8

No	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
114	土師器 蓋	口径 28.0 残高 3.3	色調：7.5YR8/3浅黄色 胎土：硬	天井部は丸みをもち、外下方へ広がる。端部は下方へ肥厚する。残存する内面はナデ、外面はヘラミガキ。	7区 SX26	平安前期
115	土師器 壺E	口径 6.3 残高 2.6	色調：内面7.5YR7/1浅黄色、 外面5YR7/6橙色	口縁から体部の一部のみ。内面から口縁部外面はナデ。体部外面はヘラミガキ。	7区 SX26	平安前期
116	土師器 甕	口径 18.4 残高 8.5	色調：内面5YR6/6橙色 胎土：砂粒含む	体部はやや丸みをもち、口縁部は大きく外反し、端部は内へ折り曲げ肥厚する。頸部内面にケズリ痕。口縁部内面から頸部外面まではナデ。体部外面はハケメ。外面に煤附着。	7区 SX26	平安前期
117	土師器 甕	口径 15.2 高さ 7.5	色調：10YR7/2にぶい黄橙色	体部は丸みをもつ。頸部から大きく口縁部を折り曲げ、端部は内に折り曲げ肥厚する。内面はハケメ後ナデ。口縁部は内・外面共にナデ。体部外面のハケメは磨滅している。	7区 SX26	平安前期
118	土師器 甕	口径 23.6 残高 8.0	色調：7.5YR7/6橙色 胎土：砂粒若干含む	やや丸みをもつ体部。口縁部はやや緩やかに外反し、端部は内に折り曲げ肥厚する。内面は口縁部がヨコ方向の粗いハケメ後ナデ、端部はナデ、体部に指圧痕が残る。外面は口縁部がハケメ、頸部はナデ、体部はハケメ。	7区 SX26	平安前期
119	土師器 甕	口径 28.8 残高 5.5	色調：7.5YR7/6橙色 胎土：硬	頸部は外反し、口縁端部は内に折り曲げる。残存する内面から口縁部・頸部外面までナデ。体部外面はハケメ。	7区 SX26	平安前期
120	土師器 高杯 (脚部)	最大径 4.5 残高 10.0	色調：7.5YR7/6橙色 胎土：密	断面七角形。中空部は下方へ広がる様相。棒状の芯に粘土を巻きつけ外面を削る。	7区 SX26	平安前期
121	須恵器 皿A	口径 16.0 高さ 2.2	色調：N7/0灰白色 胎土：密、硬質	底部は平坦で体部は外上方へ開き、端部は丸くおさめる。端部外面に煤附着。底部外面ヘラオコシ。他の部位はナデ。	7区 包含層	平安前期
122	須恵器 皿A	口径 17.6 高さ 1.9	胎土：密、硬質	平坦な底部、体部は外上方へ開く。口縁端部は短い外傾する面をもつ。底部外面ヘラオコシ。他の部位はナデ。	7区 SX26	平安前期
123	須恵器 杯A	口径 11.6 高さ 3.7	色調：2.5Y8/2灰白色 胎土：軟質	平底。体部は外上方へ開き、端部は丸くおさめる。口縁部外面炭化。底部外面はヘラオコシ。他の部位はナデ。	7区 SX26	平安前期
124	須恵器 杯A	口径 12.6 高さ 3.6	色調：N6/0灰色 胎土：密、硬質	平底。体部は外上方へ開き、口縁端部は丸くおさめる。底部外面ヘラオコシ。他の部位はナデ。	7区 SX26	平安前期
125	須恵器 杯A	口径 15.4 高さ 3.5	色調：2.5Y8/1灰白色 胎土：軟質	平底。体部は外上方へ開く。端部は丸くおさめる。器表面は磨滅が著しく調整不明。	7区 SX26	平安前期
126	須恵器 杯	口径 14.2 残高 3.8	色調：5BG6/1青灰色 胎土：密、硬質	体部は外上方へ開き、端部は引き上げる。残存する部位はナデ。	7区 SX26	平安前期
127	須恵器 杯B	口径 20.4 高さ 7.3	色調：灰白色 胎土：粗い、空間多い	断面方形の高台が付く。体部はやや丸みをもって外上方へ開く。口縁部はやや立ち上がり端部を引き上げる。ナデ調整。高台は貼り付け。	7区 SX26	平安前期
128	須恵器 鉢	口径 29.4 残高 7.2	色調：N8/0灰白色 胎土：密、硬質	体部は外上方へ開き、口縁端部は外傾する面をもち、やや内に肥厚する。残存する部位はナデ。	7区 SX26	平安前期
129	須恵器 鉢	口径 12.0 残高 3.5	胎土：密	肩の張った体部にやや外反する短い口縁が付く。残存する部位はナデ。	7区 SX23	平安前期
130	須恵器 壺	底部径 6.2	胎土：密	断面方形の高台が付く。体部はやや丸みをもって外上方へ開く。内面はロクロ。残存する体部外面はナデ。貼り付け高台。	7区 包含層	平安前期

付表1-9 7次調査出土土器類観察表9

No.	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
131	須恵器 短頸壺蓋	口径 9.2 高さ 1.5	色調：外面・釉2.5Y4/3オリ ーブ褐色、天井部10YR6/4に ぶい黄色 胎土：やや粗い、一部空洞	平坦な天井部に下外方へ開く。短い口縁部・端部は丸くおさめる。内面・口縁部外面・天井部の一部に自然釉、口縁端部には自然釉はかからない。	7区 SX26	平安前期
132	須恵器 壺蓋	口径 12.6 高さ 1.9	胎土：密、硬質	平坦な天井部に短い口縁部が下外方へやや開く。端部面をもつ。残存する部位はナデ。	7区 SX26	平安前期
133	須恵器 蓋	口径 10.8 高さ 1.5	色調：N6/0灰色 胎土：密	天井部は緩やかに外下方に広がり、口縁部は屈曲し、外下方へ突出する。天井部外面はヘラオコシ、内面に指オサエ痕が残るが、ツマミがあったのか？ 口縁部内・外面はナデ。	7区 SX26	平安前期
134	須恵器 蓋	口径 13.4 高さ 1.3	色調：N7/0灰色 胎土：硬質	天井部は平坦。口縁部は緩やかに弯曲し、端部は下方へ突出する。天井部と口縁部の境は不明瞭。残存する部位はナデ。天井部は欠損箇所が多くヘラオコシが不明。	7区 SX26	平安前期
135	須恵器 蓋	口径 18.1 残高 1.3	色調：N7/0灰白色	天井部は平坦。口縁部は屈曲し、端部は外方へ突出する。天井部外面ヘラオコシ後ナデ。その他の部位はナデ。	7区 SX26	平安前期
136	須恵器 蓋	口径 20.4 高さ 3.6	色調：N6/0灰色	宝珠形のツマミが中央に付く。天井部は平坦。口縁部は弯曲し、端部は下方へ突出する。天井部外面はヘラオコシ後ナデ、他の部位はナデ。	7区 SX26	平安前期
137	弥生土器 甕	口径 15.6 残高 4.4	色調：10YR7/3にぶい黄橙色 胎土：石英・チャート・長石 含む、赤色粒子含む	口縁は直立し、端部は丸くおさめる。口縁内外面はナデ。	8区 流路 下層	弥生
138	土師器 甕	口径 14.6 残高 4.3	色調：内面5Y4/1灰色～5Y2 /1黒色、外面7.5YR7/4にぶ い橙色 胎土：石英含む、赤色粒少量 含む	口縁部が「く」字状に外反し、端部は内面に肥厚する。口頸部は内・外面共にナデ。残存する体部内面にケズリ痕が認められるが詳細不明。	8区 流路 下層	古墳前期
139	土師器 甕	口径 14.0 残高 4.5	色調：10YR7/2にぶい黄橙色 胎土：石英・長石少量含む、 赤色粒子少量混 焼成：良	口縁部が「く」字状に外反し、端部は内に肥厚する。口頸部内面は粗いハケメ、外面はナデ。残存する体部内面はヘラケズリ、外面はハケメ。	8区 流路 下層	古墳
140	土師器 甕	口径 15.4 残高 7.0	色調：10YR7/2にぶい黄橙色 胎土：石英・長石・チャート を含む、粒子細かい	口縁部が「く」字状に外反し、端部は内に肥厚する。口頸部は内・外面共にナデ。残存する体部は内面が板状工具による縦方向のカキ取り、外面は横・斜め方向の粗いハケメ。	8区 流路 下層	古墳前期
141	土師器 甕	頸部径 10.2 残高 8.5	色調：7.5YR7/4にぶい橙色 ～10YR7/2にぶい黄橙色 胎土：石英・チャート・長石 含む	残存する内面はヘラケズリ。外面は頸部がナデ、体部上段が縦方向のハケメ、残存する中段は横・斜め方向のハケメ。	8区 流路 下層	古墳前期
142	土師器 壺	口径 8.6 高さ 8.6	色調：7.5YR7/3にぶい橙色 胎土：石英多く含む、長石・ 赤色粒を含む 焼成：良	口縁部は「く」字状に外反し、体部は球形で丸底。口頸部内・外面はナデ。内面は体・底部共にケズリ。外面は体部上段がナデ、中段が縦・斜め方向の粗いハケメ、底部が横方向の粗いハケメ。	8区 流路 下層	古墳前期
143	土師器 高杯	口径 14.8 残高 12.5	色調：7.5YR6/6橙色 胎土：石英・白色砂粒多量に 含む	杯部は屈曲して外上方にのび、口縁部が外反し、端部は丸くおさまる。杯部三方に透かし。杯部内面ミガキ、脚部は縦方向のケズリ。	8区 流路 下層	古墳前期
144	須恵器 杯身	口径 13.2 高さ 4.0	色調：N3/ 暗灰色+10YR6/1 灰色 胎土：石英・白色砂粒多く含 む、粒子細かい 焼成：良	立上がりは内傾し、端部は丸くおさめる。受部は外方へのびる。体部は丸みをもつ。底部外面は右回りのヘラケズリ。内面横方向のナデ。他の部位は内・外面共に横ナデ。	8区 流路 中層	古墳後期
145	須恵器 杯身	口径 13.4 高さ 4.2	色調：2.5GY6/1オリーブ灰 色+N6/ 灰色 胎土：石英・白色砂粒多く含 む、粒子細かい 焼成：良	立上がりは内傾し、端部は丸くおさめる。受部は外方へのびる。体部は丸みをもつ。底部外面は右回りのヘラケズリ。内面横方向のナデ。他の部位は内・外面共に横ナデ。	8区 流路 中層	古墳後期

付表1-10 7次調査出土土器類観察表10

No.	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
146	須恵器 短頸壺	長径 9.0 短径 7.6 高さ 8.3	色調：N7/灰白色 胎土：石英・長石釉少量混、 粒子細かい	口縁部はほぼ直立し歪む。体部は扁平。 内面は頸部から肩部にかけてヨコナデ。 外面は底部は左回りのヘラケズリ、他の 部位は横ナデ。	8区 流路 中層	古墳後期
147	須恵器 無蓋高杯	口径 10.4 高さ 3.6	色調：N6/～N5/灰色 胎土：石英含む、粒子やや粗 い 焼成：良	杯部のみ。杯部底部外面にカキメ、他の 部位は内・外面共にヨコナデ。杯底部内 面に灰付着。	8区 流路 中層	古墳後期
148	土師器 皿	口径 12.4 高さ 1.9	色調：2.5Y7/2灰黄色 胎土：銀雲母ごく少量含む、 粒子密	口縁部は外方へ開き、端部は上方へつま みあげる。内面は縦方向のナデ。口縁部 は内・外面共に横ナデ。外面は体・底部 共に未調整。	8区 流路 上層	平安前期
149	土師器 皿	口径 14.4 高さ 2.1	色調：10YR7/3にぶい黄橙色 胎土：長石・赤色粒含む	口縁部は外方へ開き、端部は丸くおさめ る。口縁部内・外面と体部内面は横ナデ。 底部外面は未調整。	8区 流路 上層	平安前期
150	土師器 椀	口径 15.2 高さ 3.0	色調：10YR6/3～7/3にぶい 黄橙色 胎土：赤色粒含む、密	体部は丸みをもって立ち上がり、端部は 丸くおさめる。口縁部内・外面と体部内 面は横ナデ。外面は体・底部共に未調整。	8区 流路 上層	平安前期
151	土師器 椀	口径 15.4 高さ 3.4	色調：内面10YR7/3にぶい黄 橙色、外面7.5YR7/4にぶい 橙色 胎土：石英粒・銀雲母ごく少 量含む	体部は丸みをもって立ち上がり、端部は 丸くおさめる。内面は底部は縦方向のナ デ、他の部位は横ナデ。外面は口縁部は ナデ、底部は未調整。	8区 流路 上層	平安前期
152	土師器 杯	口径 16.8 高さ 2.6	色調：7.5YR6/4にぶい橙色 胎土：白色砂粒わずかに含む 赤色粒少量混	体部は丸みをもって立ち上がり、外方へ 開く。内面は底部は縦方向のナデ、他の 部位はヨコナデ。外面は口縁部は ナデ、底部は未調整。	8区 流路 上層	平安前期
153	土師器 椀	口径 13.5 高さ 3.0	色調：10YR7/2にぶい黄橙色 +5YR7/4にぶい橙色 胎土：1～3mm石灰含む、銀雲 母少量含む	体部は丸みをもって立ち上がり、外方へ 開く。口縁部内・外面と体部内面は横ナ デ。底部内面は縦方向のナデ。底部外面 は未調整。	8区 流路 上層	平安前期
154	土師器 杯	口径 14.0 高さ 2.7	色調：10YR7/3にぶい黄褐色 胎土：石英・白色砂粒少量含 む	体部は丸みをもって立ち上がり、外上方 へ開く。口縁部内・外面と底部内面は横 ナデ。外面は体・底部共に未調整。	8区 流路 上層	平安前期
155	土師器 椀	口径 15.0 残高 3.6	色調：10YR7/3～7/4にぶい 黄橙色 胎土：粒子密	体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部 はやや外反し、端部は丸くおさめる。口 縁部内・外面と底部内面は横ナデ。外面 は体・底部共に未調整。	8区 流路 上層	平安前期
156	土師器 椀	口径 14.0 残高 3.3	色調：2.5Y7/2灰黄色 胎土：金雲母少量含む、粒子 密 焼成：良	体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部 はやや内傾する。内面から口縁部外面は ナデ。体部外面はオサエ。	8区 流路 上層	平安前期
157	土師器 杯	口径 16.2 高さ 3.1	色調：内・外面10YR7/3にぶ い黄橙色、断面7.5YR7/3に ぶい橙色 胎土：白色粒わずかに混、粒 子細かい 焼成：良	体部は丸みをもって立ち上がり、外上方 へ大きく開く。内面はナデ。外面は口縁 部ナデ、体部オサエ。	8区 流路 上層	平安前期
158	土師器 杯B	口径 16.8 高さ 4.1 底径 7.4	色調：内面10YR7/3にぶい黄 橙色、外面5YR7/6橙色～10 YR7/2にぶい黄橙色 胎土：粒子細かい	断面三角形の小さな高台が付き、体部は やや内弯気味に立ち上がり、口縁端部は 上方につまみあげる。内面は口縁から体 部ナデ、底部は粗いハケメ。外面は口縁 部ナデ、体部はケズリ、一部ナデ。高台 は貼り付け。	8区 流路 上層	平安前期
159	土師器 杯B	口径 17.0 高さ 4.3 底径 8.2	色調：10YR7/2～7/3にぶい 黄橙色 胎土：1～2mmの石英・長石含 む、赤色粒混	断面台形の高台が付き、口縁部はやや屈 曲し端部は丸くおさめる。内面は底部は 縦方向の粗いハケメ、他の部位はナデ。 外面は口縁部が端部のみケズリ仕上げた ナデ、体部はケズリ、底部はナデ。高台 は貼り付け。	8区 流路 上層	平安前期
160	土師器 杯B	口径 18.0 高さ 4.3 底径 8.2	色調：10YR6/3灰黄褐色 胎土：白色砂粒少量含む、粒 子細かい 焼成：良	断面台形の高台が付き、口縁部はやや屈 曲する。内面は底部が縦・斜め方向の細 かいハケメ、体部から口縁部はナデ。外 面は底部はナデ、他の部位はヘラケズリ、 口縁部にナデによる凹みのケズリ残しが 認められ、口縁部はナデ後ヘラケズリ。	8区 流路 上層	平安前期

付表1-11 7次調査出土土器類観察表11

No.	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
161	土師器 杯B	口径 18.4 高さ 4.5 底径 9.2	色調：7.5YR7/4～7/3にぶい 橙色 胎土：1～2mmの石英・礫含む 赤色粒多く混	断面三角形の高台が付き、口縁部は屈曲し、端部は上方へひきあげる。内面は底部は縦方向のハケメ、他の部位はナデ。外面は口縁部が端部の一部にケズリ痕の残るナデ、体部はヘラケズリ、底部はナデ。高台は貼り付け。	8区 流路 上層	平安前期
162	土師器 甕	口径 11.6 残高 8.4	色調：10YR7/3にぶい黄橙色 胎土：石英・チャート含む、 粒子細かい 焼成：良	球形の体部に「く」字状の口縁部が付き、端部は丸くおさめる。口頸部は内・外面共にナデ。体部は内面上段は板状工具によるナデ、外面は上段が縦方向、下段が斜め方向の粗いハケメ。	8区 流路 上層	平安前期
163	黒色土器A 椀	口径 22.0 高さ 5.6	色調：外面口縁N2/黒色、体 ・底部10YR6/3にぶい黄褐色 胎土：赤色粒含む、石英混	底部は平坦で体部は丸みをもって立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内面は底部は一定方向のヘラミガキ、他の部位は横方向のヘラミガキ、体部に暗文が施される。外面は口縁部はナデ、体部は横・斜め方向の軽いケズリ、底部は一定方向の軽いケズリ。	8区 流路 上層	平安前期
164	須恵器 蓋	口径 13.0 高さ 2.0	色調：内・外面N6灰色、 一部2.5Y7/2灰黄色 胎土：密 焼成：一部半生焼きか	天井部は平坦でツマミは付かない。口縁部は屈曲し、端部は下方へ突出する。内面は天井部は縦方向のナデ、他の部位は横ナデ。天井部外面は右回りのヘラケズリのまま、他の部位は横ナデ。	8区 流路 上層	平安前期
165	須恵器 杯	口径 13.0 高さ 3.2 底径 7.0	色調：2.5Y7/1灰白色 胎土：砂粒わずかに含む、粒 子細かい 焼成：軟質	底部は平坦で、体部は丸みをもって立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。底部外面はヘラケズリ、他の部位は内・外面共に横ナデ。	8区 流路 上層	平安前期
166	須恵器 壺	口径 4.3 残高 5.2	色調：灰色 胎土：砂粒わずかに含む 粒子密	口縁部は外反し、端部は面をなす。内面は口縁から頸部が横ナデ、頸部下段にしぼり痕。残存する外面は横ナデ。一部口縁から底部にかけて灰付着。	8区 流路 上層	平安前期
167	須恵器 鉢	口径 16.6 高さ 14.3 底径 9.4	色調：2.5Y7/2灰黄色 胎土：砂粒わずかに含む、粒 子細かい 焼成：軟質	平底で体部は外上方に立ち上がり、上位で屈曲し短い口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は未調整の糸切り。他はナデ調整。	8区 流路 上層	平安前期
168	須恵器 平瓶	口頸部 7.2 最大径 21.6 高さ 8.9 底径 13.4	色調：暗青灰色、内面灰色 胎土：1mm前後の小石含む	注口部欠損。天井部に注口部の接合痕が残る。把手は一部のみ。肩部外面・把手・底部円面に灰付着。ナデ調整。	8区 流路 上層	平安前期
169	緑釉陶器 皿	口径 14.0 高さ 2.7 底径 7.0	色調：10YR8/3浅黄橙色 胎土：石英・長石を含む、粒 子やや粗い	体部は浅く、口縁部は外反し端部は丸くおさめる。軟質の素地に緑灰色の釉薬を全面に施す。器表面の剥離が著しい。口縁部外面はヨコナデ。高台は削り出し。	8区 流路 上層	平安前期
170	緑釉陶器 皿	口径 15.6 高さ 2.7 底径 6.8	色調：10YR8/3にぶい黄橙色 断面10YR7/1灰白色 胎土：砂粒多く含む、粒子粗 い	体部は浅く、口縁部は外上方へ開く。やや軟質の素地に淡緑灰色の釉薬を全面に施す。口縁部内面に凹線が認められる。外面は横ナデ、体部の一部はヘラケズリ。高台は削り出し。	8区 流路 上層	平安前期
171	灰釉陶器 皿	口径 13.4 高さ 2.3 底径 7.0	色調：内・外面2.5Y7/1灰白 色 胎土：白色砂粒ごく少量含む 粒子密	底部に断面台形の高台が付く。体部は低く開き、口縁部はやや外反し、端部は丸くおさめる。内・外面に灰釉をうすく施す。調整は横ナデ。	8区 流路 上層	平安前期
172	灰釉陶器 椀	口径 14.0 高さ 4.2 底径 7.6	色調：灰白色 胎土：砂粒わずかに含む、粒 子密	断面方形の高台が付く。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部に至る。端部は丸くおさめる。ナデ。内面のみ施釉。高台は貼り付け。	8区 流路 上層	平安前期
173	灰釉陶器 椀	口径 16.2 高さ 4.8 底径 8.2	色調：2.5Y7/1灰白色 胎土：白色砂粒ごく少量含む 焼成：良	断面方形の高台が付く。体部は内弯気味に立ち上がり、口縁部は外反。内面ハケ塗り施釉。調整は横ナデ。	8区 流路 上層	平安前期

付表2 8次調査1区出土遺物観察表

No	器種器形	法量(cm)	色調・胎土	形態・調整の特徴	層・遺構	時代
1	土師器壺	口径 8.8 胴径 13.4 高さ 12.9	色調：10RY7/3～7/2にぶい黄橙色 胎土：石英・チャート含む赤色粒多く混	底部は丸みをもつ。体部も丸みをもち内傾しながら立ち上がる。口縁部はやや外傾し端部は丸くおさめる。口縁内・外面および体部上段はナデ。体部中段以下の外面はハケメ、内面は板状工具によるナデ。底部内面に指オサエ痕あり。	1区 SX21	古墳前期
2	土師器甕	口径 13.2 胴径 19.8 残高 11.3	色調：10YR6/2灰黄褐色 胎土：1～2mm石英・チャート・長石多く含む 赤色粒混	器表面はあれている。体部は丸みをもち内傾しながら立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲する。口縁部は外反し端部は外傾する小さな面をなす。体部内面はヘラケズリ、口頸部内・外面はナデ、体部外面は板状工具による縦・斜めのナデか、詳細不明。体部外面煤付着。	1区 SX21	古墳前期
3	土師器高杯	口径 14.5 底径 9.0 残高 10.7	色調：2.5YR6/6～7/8橙色、裾部10YR7/2にぶい黄橙色	杯部体部は口縁部に向けやや内弯しながら立ち上がり、端部は丸くおさめる。脚部は下外方にやや広がり、裾部は大きく開く。端部は丸くおさめる。脚部内面にしぼり目が残る。巻き上げ後ナデ。	1区 SX21	古墳前期
4	土師器高杯	口径 9.8 残高 8.2	色調：10YR6/3にぶい黄橙色 胎土：φ1～2mmの砂含む、粗い	高杯脚部と底部のみ。外面は縦方向のケズリ後ヘラミガキ、磨滅が著しく詳細不明。	1区 SX20 混入	古墳前期
5	土師器皿	口径 16.0 高さ 2.3	色調：5YR6/6橙色 胎土：白色砂粒を含む、赤色粒子混	内・外面に10YR8/2灰白色泥を塗る。外面中段から底部ケズリ。口縁部内・外面はナデ。	1区 P33	平安前期
6	土師器杯A	口径 17.6 高さ 3.6	色調：10YR7/4にぶい黄橙色 胎土：φ1mm弱の白い石粒混	体部は丸みをもって立ち上がり、口縁端部はつまみ上げられ内側に肥厚する。外面はヘラケズリ。口縁端部・内面はナデ。	1区 SX20	平安前期
7	土師器椀	口径 11.0 高さ 3.7	色調：2.5YR6/6橙色 胎土：白い石粒混	体部は内弯しながら立ち上がり、口縁端部は内側にやや肥厚する。内面に10YR6/2灰黄色泥を塗るか。内面・口縁端部外面はナデ。その他は粗いケズリ。	1区 SX20	平安前期
8	土師器甕	口径 26.2 残高 6.5	色調：2.5Y7/4浅黄色、内面2.5Y7/2灰黄色	体部は内傾して立ち上がり頸部で「く」の字状に外方へ折れ曲がる。口縁部は内側に折り返され肥厚する。外面は粗いハケメ、口縁端部はナデ。内面は横方向の粗いハケメ。体部内面はナデ。	1区 SX20	平安
9	土師器高杯(脚部)	残高 10.5	色調：7.5YR7/6橙色 胎土：赤褐色粒含む	脚部のみ。断面七角形。中空部は下方に向かって広がる。棒状の芯に粘土を巻き付け、下方に向かって丁寧に削る。	1区 SD11	平安前期
10	土師器皿	口径 12.2 高さ 2.4	色調：10YR8/3浅黄色 胎土：密	底部欠損1/4残。体部は底部から緩やかに屈曲して開く。口縁部はやや外反し端部は肥厚する。内面・口縁部外面ナデ。その他はオサエ。内面にハケメ痕あり。	1区 SD11	平安中期
11	土師器杯	口径 14.4 高さ 4.3	色調：10YR7/4にぶい黄橙色 胎土：密、2.5YR6/8橙色含む	体部は内弯気味に開き、口縁部はやや外反する。内・外面ナデ。	1区 SD11	平安
12	瓦質トチン	最大径 1.9 高さ 4.1		つづみ型。指オサエ後、縦方向のナデ仕上げ。	1区 表採	近・現代

圖 版

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょうしぼうじゅうさん・じゅうよんちょう、しじょうしぼうじゅうご・じゅうろくちょうあと							
書名	平安京右京三条四坊十三・十四町、四条四坊十五・十六町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2001-11							
編集者名	伊藤 潔・近藤章子							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2003年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 さんじょうしぼうじゅうさん・ 三条四坊十三・ じゅうよんちょう、 十四町、 しじょうしぼうじゅうご・ 四条四坊十五・ じゅうろくちょうあと 十六町跡	きょうとしうきょうく 京都市右京区 やまのうちいけじりちょう・ 山ノ内池尻町・ にしうらちょう・きたのくち 西裏町・北ノ口 ちょう・ごたんだちょうほか 町・五反田町他 ちない 地内	26100		35度 00分 17秒	135度 43分 21秒	7次調査 2001年6月 11日～2001 年10月24日	約700㎡	道路改築
				35度 00分 19秒	135度 43分 21秒	8次調査 2002年1月 15日～2002 年3月19日	約350㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京右京 三条四坊十三・ 十四町、 四条四坊十五・ 十六町跡	都城跡	弥生時代 ～近・現代	溝・土壇・柱穴	弥生土器・土師器・黒 色土器・須恵器・緑釉 陶器・灰釉陶器・瓦器・ 焼締陶器・施釉陶器・ 軒平瓦・平瓦・土馬・ トチン・石鏃・木製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-11
平安京右京三条四坊十三・十四町、
四条四坊十五・十六町跡

発行日 2003年2月28日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961